

ひこね子ども文化芸術奨励事業

第五回（平成二十六年 度）

ひこね子ども文芸作品 入選集

主催：彦根市・彦根市教育委員会
協力：彦根文芸協会



彦根市民憲章

(昭和52年2月11日制定)

豊かな自然と歴史遺産に恵まれた彦根市に住むわたしたちは、先人のたゆまない
努力によって築かれた郷土に誇りと責任をもち、風格と魅力のある都市を創造して
いくために努力します。

わたしたち彦根市民は

- 郷土を愛し、水と緑の美しいまちをつくります。
- 歴史と伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくります。
- 人権を尊び、お互いに助けあい、信頼しあうまちをつくります。
- 心とからだを鍛え、働く喜びに満ちたまちをつくります。
- 若い力を育て、夢と活気のみなぎるまちをつくります。

彦根市民の歌

奥山 平吉 作詞
川澄 健一 作曲

- 朝日かげ かがよう波に
明けわたる 琵琶の湖
新生の いぶきさやかに
うるわしき うるわしき文化の都
ああ清し われらの彦根
- 遥かなる 伊吹の高嶺
山脈のみどり明るく
若き陽は 街に溢れて
人の和に 人の和に栄える都
ああたのし われらの彦根
- とこしえの 世紀にかおる
井伊の城 仰ぐあけくれ
幸福を 共に築きて
月に日に 月に日に伸びゆく都
ああうれし われらの彦根

目次

ま え が き	1	俳 句	小 学 1 ・ 2 年 生	2	小 学 3 ・ 4 年 生	6	小 学 5 ・ 6 年 生	10	中 学 生	15	川 柳	小 学 1 ・ 2 年 生	21	小 学 3 ・ 4 年 生	25	小 学 5 ・ 6 年 生	29	中 学 生	33	短 歌	小 学 1 ・ 2 年 生	39	小 学 3 ・ 4 年 生	40	小 学 5 ・ 6 年 生	41	中 学 生	46	詩	小 学 1 ・ 2 年 生	51	小 学 3 ・ 4 年 生	59	小 学 5 ・ 6 年 生	68	中 学 生	75
------------------	---	--------	---------------------------------	---	---------------------------------	---	---------------------------------	----	-------------	----	--------	---------------------------------	----	---------------------------------	----	---------------------------------	----	-------------	----	--------	---------------------------------	----	---------------------------------	----	---------------------------------	----	-------------	----	---	---------------------------------	----	---------------------------------	----	---------------------------------	----	-------------	----

○応募者数・応募作品数

	小学1・2年生		小学3・4年生		小学5・6年生		中学生		合 計	
	人数	作品数	人数	作品数	人数	作品数	人数	作品数	人数	作品数
俳 句	404人	662点	567点	994点	738人	1,271点	1,077人	1,748点	2,786人	4,675点
川 柳	360人	639点	443点	779点	353人	584点	683人	1,206点	1,839人	3,208点
短 歌	5人	9点	22点	37点	369人	503点	433人	564点	829人	1,113点
詩	195人	213点	94点	101点	69人	69点	7人	10点	365人	393点
合 計	964人	1,523点	1,126人	1,911点	1,529人	2,427点	2,200人	3,528点	5,819人	9,389点

○入賞点数

	小学1・2年生		小学3・4年生		小学5・6年生		中学生		合 計	
	特選	2点	特選	2点	特選	3点	特選	3点	特選	10点
俳 句	準特選	5点	準特選	5点	準特選	7点	準特選	7点	準特選	24点
	佳作	10点	佳作	10点	佳作	15点	佳作	15点	佳作	50点
	入選	25点	入選	25点	入選	30点	入選	28点	入選	108点
	計	42点	計	42点	計	55点	計	53点	計	192点
川 柳	特選	2点	特選	2点	特選	2点	特選	3点	特選	9点
	準特選	5点	準特選	4点	準特選	5点	準特選	7点	準特選	21点
	佳作	10点	佳作	10点	佳作	10点	佳作	15点	佳作	45点
	入選	25点	入選	25点	入選	20点	入選	28点	入選	98点
	計	42点	計	41点	計	37点	計	53点	計	173点
短 歌	特選	1点	特選	1点	特選	2点	特選	2点	特選	6点
	準特選	1点	準特選	1点	準特選	5点	準特選	4点	準特選	11点
	佳作	1点	佳作	2点	佳作	10点	佳作	11点	佳作	24点
	入選	1点	入選	3点	入選	20点	入選	20点	入選	44点
	計	4点	計	7点	計	37点	計	37点	計	85点
詩	特選	2点	特選	2点	特選	2点	特選	1点	特選	7点
	準特選	5点	準特選	5点	準特選	5点	準特選	1点	準特選	16点
	佳作	10点	佳作	10点	佳作	7点	佳作	1点	佳作	28点
	入選	15点	入選	13点	入選	10点	入選	1点	入選	39点
	計	32点	計	30点	計	24点	計	4点	計	90点
合 計	特選	7点	特選	7点	特選	9点	特選	9点	特選	32点
	準特選	16点	準特選	15点	準特選	22点	準特選	19点	準特選	72点
	佳作	31点	佳作	32点	佳作	42点	佳作	42点	佳作	147点
	入選	66点	入選	66点	入選	80点	入選	77点	入選	289点
	計	120点	計	120点	計	153点	計	147点	計	540点

まえがき

彦根市教育委員会 教育長 前川 恒廣

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、日ごろから文化芸術活動に熱心に取り組む子どもたちの努力と榮譽を称えることにより、将来の文化芸術活動を担う次世代の人材を育成することを目的に、『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を平成二十二年度から実施しております。

この事業の一つとして、子どもたちが日本語の持つ本来の美しさを感じ、豊かな表現力（考える力・書く力・伝える力）を育むため、「第五回 ひこね子ども文芸作品」の募集を行ったところ、延べ五千八百十九人の子どもたちから、九千三百八十九点もの作品が寄せられ、子どもたちに文芸の創作活動が定着しつつあると、大変うれしく思っています。

文芸をはじめとする文化芸術は、人々の創造力を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う心豊かな社会を形づくるとされ、同時に、これから国際化がますます進展していく中で、文化芸術の創作活動により文化的な伝統を尊重する心を育てると言われています。

また、今年は、郷土の偉人である井伊直弼公の生誕二百年にあたります。直弼公は、青年時代には彦根城の堀端にある埋木舎において、茶道や和歌・鼓といった文化芸術に大変熱心に打ち込み、その姿から、周りの人々から「茶・歌・ポン（鼓）」と言われ、やがてその道をきわめました。その時作られた数々の作品はもちろんのこと、そこで培われた精神は、現代においても多くの人々に受け継がれています。

この「ひこね子ども文芸作品」では、多くのすばらしい作品が掲載されていますが、その創作活動を通じて、普段何気なく見ていた身の回りにある自然の風景や彦根の歴史、そして、自分の家族や友だちへの見方や感じ方を大きく変え、今まで意識しなかった事柄に気づくきっかけとなり、新たな発見・再認識につながったことと思います。まさに、直弼公が文化芸術活動を通じて自らの人間性を高めていったように、これから心身ともに大きく成長していく小学生や中学生の皆さんにとって、文芸活動に積極的に取り組まれたことは、心豊かな人間性を形成するうえで大変有意義であったと考えます。

これからも引き続き、日常の中にある多くの事柄を素直に感じ、考え、そして、それらを自分自身の言葉で表現することを大切にして、そのための努力を惜しまない姿勢を持ち続けていってほしいと考えます。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には作品の募集・選考をはじめ、夏休みには「夏休み文芸ワークショップ」の講師など、彦根市の新たな文芸の若い芽の育成のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これから、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願い申し上げます。

平成二十七年 三月

俳句

〈小学1年生・2年生〉



特選 どんぐりでライオンきりんつくったよ

亀山小学校1年 青山 柊吾

(評)

この句のよい所は、どんぐりで何を作ったかを言ったことです。ライオンやキリンを作るためには、大小いろいろなどんぐりをたくさんひろったのでしょう。考えながら楽しく作っている様子が見えるようです。ぐたいてきに言ってせいこうしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 学校であきをさがしにいきました

城陽小学校1年 藤井 琶子

(評)

なんとロマンチックなのでしょう。皆で校外学習に出かけたのでしょうか。「あきをさがしにいきました」とは、かんたんそうでもなかなか言えない言葉です。どんな秋を見つけたのか聞いてみたくなりました。また俳句で教えて下さいね。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 あきのよるかいき月しよく赤かった

亀山小学校1年 神菌 樹人

(評)

三年ぶりのかいき月しよくは好天にめぐまれて、とても美しく見えました。いつもとまったくちがう赤い色の月を見た感動が、素直に表現されています。めずらしいでき事をうまく俳句にしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 声かけてそだてたボクのプロトマト

金城小学校2年 村上 夕介

(評)

「声をかけてそだてた」と言う所がこの句のポイントです。花だって声をかけながら育てると、きれいな花を咲かせると言います。プロトマトも声をかけたぶんだけ、しっかりと育ち、おいしそうな実をつけたことでしょう。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 赤とんぼ田んぼの上でおいこつた

城陽小学校2年 疋田 心春

(評)

広い田んぼの中、空をとびまわっている赤とんぼを見て、おいこつたと感じた所に、この句の良さがあります。ぶつかりそうでぶつからない赤とんぼは、本当におにごっこをしているようです。

(彦根文芸協会 北川 栄子)



準特選 うんどう会おうえん合せんがんばるぞ

佐和山小学校2年 吉川 はな

(評)

運動会は、リレーや組たいそうが目立ちがちですが、皆で力を合わせてするおうえんも大切です。焦点がおうえんにあり、何にがんばるかがわかる良い句です。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 いがぐりがちくちくみをねまもつてる

平田小学校2年 北川 詠都

(評)

いがぐりのとげは本当にいたいですね。実ってはじけると落ちますが、それでも素手ではされません。取られないように自分の身をまもっています。感じた事をうまく一句にまとめています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

佳作 赤とんぼぼうに止まって一休み

若葉小学校2年 宮本 紫衣

佳作 どんぐりがライオンさんにへんしんだ

亀山小学校2年 塩谷 莉菜

佳作 えんそくだわくわくのぼるひこねじょう

金城小学校2年 川原 結衣

佳作 春休みもうすぐ学年上がるよね

城東小学校2年 若林 柊聞

佳作 友だちとハロウィンパーティー楽しいな

城陽小学校2年 古川 愛奈

佳作 うんどう会かけっこリレーまけないぞ

若葉小学校2年 吉田 文琉

佳作 どんぐりの学校見つけ木の下で

城南小学校2年 山口 桜都

佳作 とげとげの中にかわいいくり二つ

亀山小学校1年 森 和夢

佳作 カブトムシ木のしるなめてうれしそう

鳥居本小学校1年 西村 琉響

佳作 おちばがね夕日のようにまっかだね

鳥居本小学校1年 樋口 華恋

入 選 くりひろいおべんともってたのしいな

亀山小学校 1 年 勝間 雅

入 選 もみじはね赤ちゃんの手みたいだね

亀山小学校 2 年 大石 佳音

入 選 きこえるよ虫の声だねりんりん

城北小学校 1 年 田中 乙羽

入 選 もみじさんいろがかわってきれいだな

城陽小学校 1 年 辻 国也

入 選 なつの日はぎらぎらたいようまぶしいな

城陽小学校 1 年 堀野 奏和

入 選 あめんぼがおよいでいるやすいすと

城陽小学校 1 年 坂東 蒼衣

入 選 いもほりは力があるよがんばって

鳥居本小学校 1 年 折戸 悠莉

入 選 みつけたよきれいなまるにじかかてる

稲枝北小学校 1 年 吉田 玲欧

入 選 みいつけたばったがはねるこうていで

稲枝北小学校 1 年 大西 翔琉

入 選 どんぐりでコマをつくってプレゼント

亀山小学校 1 年 田中 琉真

入 選 どんぐりをひろい工作楽しいな

亀山小学校 2 年 田中 理桜

入 選 あきのにわはっぱいっぱいきれいだね

平田小学校 2 年 黒田 一絆

入 選 かきのたねたねはかたいぞうえたいな

佐和山小学校 2 年 中村 葵

入 選 おちばはね風におされてどこへいく

城東小学校 2 年 北川 那奈

入選 木のはっぱ色がかわって秋がくる

城北小学校2年 宮島 凜

入選 七五三かわいいいきものきている子

城北小学校2年 渡 心美

入選 秋の空雲が白くてきれいだな

城北小学校2年 大塚 竜輝

入選 空をとんとんぼを見てるまち時間

城陽小学校2年 若林 比呂

入選 やきいもをやいたら黄色きれいだな

城陽小学校2年 高木 帆香

入選 ようせいとあそんでみたいながれ星

鳥居本小学校2年 押谷 美優

入選 赤とんぼ夕日の空にすういすい

若葉小学校2年 中澤 雅也

入選 こたつはねあったかいから出られない

若葉小学校2年 横山 瑛基

入選 クリのかわむけないけれど食べたいな

亀山小学校2年 西沢 羽琉

入選 くりごはんくりがあまくておいしいな

高宮小学校2年 中野 楓愛

入選 きれいだなもみじのはっぱひらりと

亀山小学校1年 中村 樹生



《小学3年生・4年生》

特 選 冬近し風のようにせいまいおどる

城陽小学校4年 堀居 美里

(評) 秋の終わりには、強い風が吹き荒れます。これを「木(こ)枯(がらし)一号」といいますが、この句は木枯しの正体を、「風のようにせい(妖精)」ととらえたところがすばらしい。この句から、いよいよよきびしい冬の近づきを感じます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

特 選 さくら見るみんなのえ顔もまんかいだ

城南小学校3年 勝木 藍

(評) 希望の春、ぽかぽかの日ざし、彦根城はさくら満開。いっぱいの花見客のようすが目に浮びます。「みんなのえ顔もまんかいだ」とは、たくみな表現です。希望と春が来た喜びの笑顔、笑顔、笑顔だったのでしょうか。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)



準特選 夏の葉は絵の具にでないみどり色

金城小学校4年 宮川 あかり

(評) 春から夏にかけて、野山の木々の葉は、どんどん変化していきます。きみどりの若葉はこい緑色へ、太陽の光を受けて育っていきます。このたくましい色は、えの具では表現できないすばらしい緑色。この緑色に感動したのですね。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 びわこにねぼっかりうかぶ夏の月

城南小学校3年 幸重 季空

(評) さんさんと太陽が照りつけるあつい夏の日も、夕ぐれとともにおさまってきます。このころ、びわこ岸へ行くと、湖の上に、まんまるい月がぼっかり浮び、湖面をきらきらと照らしています。雄大で美しい風景です。どこからか、涼しい風がふいてきそうな場面です。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 雪だるま気づくと四つ家族分

城東小学校4年 辰野 真末

(評) 雪がたくさん降ってよかったね。四人家族の雪だるまをつくり上げたのですね。雪だるまを夢中になっつつくったことが、「気づくと」のことばでわかります。全体から、家族が力を合わせながら、寒さもへっちゃらで取り組む元気な姿が想像できます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 新米は白くかがやく宝石だ

旭森小学校 4 年 辻 実優

(評) 今年も豊作でした。この句は、自分の思いをずばりいいきった気持ちのよい句です。

新米の一つぶ一つぶがまっ白でかがやき、まるで宝石のようだったのですね。「宝石だ」のことばが光っています。新米のおいしそうなかがやきが伝わってきます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 雪のはなまちをきれいにそめていく

佐和山小学校 3 年 木村 優芽

(評) 雪の結晶(けっしょう)を「ゆきのはな」とは、たくみなとらえ方です。観さつの目もするどい。木々や町の家々に、雪がつもっていくようすを「そめていく」と表現したこともすばらしい。美しい雪の町の風景が目に見えてきます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

佳作 もみじ落ち池にうかぶ船になる

稲枝西小学校 4 年 寺田 淳平

佳作 アメンボが川ですいすい平泳ぎ

城北小学校 3 年 大西 花音

佳作 もみじの葉風に乗り乗り旅行中

稲枝北小学校 4 年 松野 李音

佳作 秋の空まっかな絵の具ぬったんだ

城陽小学校 4 年 菱田 佳奈

佳作 もみじの葉まっかになってわらってる

城陽小学校 3 年 豊田 夏歩

佳作 お星さまキラキラほう石みたいだな

城陽小学校 3 年 松村 ななみ

佳作 秋になりすすしと葉が落ちる

城南小学校 4 年 伊藤 心

佳作 おち葉はね地めんをそめるえの具だよ

若葉小学校 3 年 目片 舞

佳作 もみじの葉真っ赤にそまってほっぺただ

鳥居本小学校 4 年 永松 光梨

佳作 もみじの葉ちらりはらりと地におちる

平田小学校 4 年 西本 朔良

入 選 いっぱいのきれいな落葉カーペット

亀山小学校 3 年 天野 未優

入 選 もみじがねさむいさむいといしようがえ

旭森小学校 4 年 井上 桜子

入 選 風あたりゆらゆらゆれる夕すすき

旭森小学校 4 年 上田 真羽

入 選 秋になりひこ根じようがもみじいろ

城西小学校 3 年 西村 彩菜

入 選 秋の虫はねで合唱しているよ

城北小学校 3 年 大澤 瑞葵

入 選 楽しいなみんなであそぶ雪だるま

亀山小学校 4 年 岩崎 乃愛

入 選 秋の夜風と虫たちのどじまん

城東小学校 4 年 山田 楓勇紀

入 選 秋の花風にゆられてはなしてる

城南小学校 4 年 若林 由乃

入 選 秋の風どんぐりたちがおどりだす

城北小学校 4 年 吉田 栞乃

入 選 秋風にふかれておちばささやくよ

城陽小学校 4 年 三橋 力也

入 選 夕日空赤いトンぼがおにごっこ

城陽小学校 4 年 小南 香奈

入 選 くりの木はあきになったらくりがなる

平田小学校 4 年 大橋 由奈

入 選 こうようがきれいなおてらえいげんじ

平田小学校 4 年 関谷 諒晟

入 選 まん月がよなかの空にひかってる

稲枝北小学校 3 年 川添 航希

入 選 いねかりの終わったあとでかけっこだ

亀山小学校 4 年 長崎 遥香

入 選 赤とんぼ夕やけ空に絵をかい

城陽小学校 4 年 川崎 沙彩

入 選 寒くても外で遊ぶよおにごっこ

若葉小学校 4 年 川井 紀賀

入 選 お父さんのひざの上から見る花火

城西小学校 3 年 一ノ瀬 剛志

入 選 どんぐりが山いっぱいに落ちている

城西小学校 3 年 鳥越 胡都音

入 選 きらきらと雪のけっしょう光ってる

佐和山小学校 3 年 増田 早雪

入 選 もみじがね赤いじゅうたん作ってる

佐和山小学校 3 年 大音 佳歩

入 選 雪だるまわたしのほうを見ているな

佐和山小学校 3 年 草刈 杏花

入 選 夏の夜ながれ星見てねがいごと

佐和山小学校 3 年 澤田 芽唯

入 選 つばめの子すからとびたちおやばなれ

稲枝東小学校 3 年 田中 彩都乃

入 選 冬休みかまくらの中ポツカポカ

佐和山小学校 3 年 島崎 海琉



〈小学5年生・6年生〉

特選 友達としもをふんだらもう仲良し

平田小学校5年 辻中 鈴奈

（評） 真白なきびしい寒さの中で、「しもをふんだら」もう楽しくてすぐ友だちに
なれたよ。この年れいでないと作ることができない日本の季節感が素直に出
ています。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

特選 新米がおいしすぎるよもう一杯

稲枝東小学校6年 山口 陽豊

（評） お母さんが幸せそうに笑っているんじゃないかな。新米の味を「おいし
ざるよ」と表現したところが子どもらしくて、「もう一杯」というところに健
康と食欲が見事に伝わってきます。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

特選 玄宮園池に映るは白い月

城西小学校6年 陌間 紗佳

（評） 城の上の月を詠まずに池に映った白い月を詠んだ眼のつけどころを評価し
ました。池に映って少しゆれているのかも知れませんが、「白い月」の下五が印
象的です。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

準特選 さつまいも焼いておいしいこい黄色

佐和山小学校5年 西村 友星

（評） やけたかなとさつまいもをぼきんとおったときのあのきいろ。ぱくつとた
べたときのあついほかほかのあじが伝わってきます。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

準特選 秋ざくら風とおはなし笑ってる

佐和山小学校5年 田中 七海

（評） コスモスが風にゆれているようすを、「おはなし笑ってる」と表現したこ
ろがよろしい。そうおもえたのはあなたのやさしい心でよく見ていたからな
のです。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

準特選 まったけのいいかおりだねどびんむし

城西小学校5年 喜多 源

（評） 「いいかおりだね」は本当にすなおに表現されています。どびんむしを知
らない友だちもいるかも知れないのにあなたは本当に幸せでした。日本の季
節の味は伝えていきたいものです。

（彦根文芸協会 寺村 滋）



準特選 夕日照りひかりかがやくもみじの葉

平田小学校5年 北村 藍都

(評) ひるまも美しいもみじですが、夕日に照らされるとまた輝くようにいつそう美しく見えます。よく見てすなおに表現しました。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 山の月空へ広がる風の音

若葉小学校5年 寺村 鈴華

(評) 美しい山の上の月を見ながら、そらへひろがっていく風の音を聞いている作者。目と耳でとらえた夜の大きな景色がうまく詠めました。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 秋の空つきぬける青海のよう

亀山小学校6年 白田 凌雅

(評) 秋の空のすきとおるような深さを「つきぬける青」とはうまく詠みました。「海のように」でひろさも伝わります。

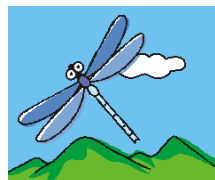
(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 田んぼ道いそがしそうな赤とんぼ

佐和山小学校6年 上田 弓

(評) 赤とんぼの羽のうごきを見て「いそがしそうな」と詠んだのはおもしろい発見です。人間はまだ時間があると思いますが、とんぼはもうすぐ飛べなくなるのかもしれないね。

(彦根文芸協会 寺村 滋)



佳作 空にまう赤いもみじに手をのぼす

佐和山小学校5年 松本 知樹

佳作 秋の山炎みたいにもえている

城東小学校5年 鶴田 杏

佳作 コスモスが風に吹かれて夢の中

城陽小学校5年 眞田 桃花

佳作 夏の日に初めて打てたツーベース

城東小学校5年 牧村 颯太

佳作 たそがれ時少しさみしい秋の風

城東小学校 5 年 村木 春桜

佳作 運動会ぜったい勝つぞやる気でた

城東小学校 5 年 馬場 柊吾

佳作 秋にはねスポーツ読書色々

城北小学校 5 年 長谷川 茜

佳作 オレンジの夕日がきれいだ秋だなあ

城北小学校 5 年 宍戸 美優

佳作 夕やけできらきら光るびわの湖^{うみ}

城陽小学校 5 年 橋山 颯

佳作 やきいもで心もからだもほっかほか

平田小学校 5 年 伊吹 彩希

佳作 金色に光輝く麦畑

若葉小学校 5 年 古川 怜生

佳作 いわし雲空一面に泳ぎみる

亀山小学校 5 年 山岡 洸瑛

佳作 おいしいな家族みんなで栗ごはん

佐和山小学校 6 年 澤田 夏音

佳作 運動会チームワークが宝物

金城小学校 6 年 星野 駿

佳作 あかとんぼ葉のさきにのり前のめり

金城小学校 6 年 井上 緋茜



入選 赤ちゃんの小さな手のようもみじの葉

佐和山小学校 5 年 舘野 光

入選 夕暮れにもみじひらひら落ちてくる

城西小学校 5 年 一谷 観羽

入 選 入学生ピンクの桜でおでむかえ

城東小学校 5 年 井 入 宗 大

入 選 遊園地飾りはすっかりクリスマス

城東小学校 5 年 堤 荘 友 斗

入 選 満月見ほっと一息つきましよう

城北小学校 5 年 若 林 明 日 風

入 選 秋の山色とりどりになってきた

若葉小学校 5 年 深 石 剛 史

入 選 カラスなく秋の夕日はきれいだな

稲枝東小学校 6 年 松 原 佑 樹

入 選 もみじの葉くきを取れば星になる

稲枝東小学校 6 年 伊 丹 滉

入 選 赤とんぼ指に止まってかわいいな

稲枝東小学校 6 年 西 中 優 雅

入 選 もみじの葉いろがきれいでみとれてる

稲枝東小学校 6 年 青 山 樹

入 選 いちよう散る地面は黄色きれいだな

稲枝東小学校 6 年 田 中 優 希

入 選 色づいて美しくなる秋の山

亀山小学校 6 年 田 村 泰 葉

入 選 夕方の真っ赤な空に赤とんぼ

亀山小学校 6 年 細 川 茜

入 選 歩くたびかれはをふむ音なりひびく

佐和山小学校 6 年 小 野 郁 花

入 選 赤とんぼぼくと友達になりましよう

佐和山小学校 6 年 田 口 美 優 喜

入 選 秋の空夕日がおちる時早い

城西小学校 6 年 渋 谷 航 平

入 選 飯にのる宝石のような旬のくり

城東小学校 6 年 大橋 史明

入 選 秋桜の白やピンクのじゅうたんだ

城東小学校 6 年 宮元 思緒

入 選 秋とんぼ群れで大空飛んでいる

城東小学校 6 年 奥 美里

入 選 公園にもみじの床ができています

城西小学校 6 年 多田 理那子

入 選 蛍舞う夜空に輝く星のよう

城南小学校 6 年 山下 玲奈

入 選 つちの中五人かぞくのおいもさん

城北小学校 6 年 若林 真衣

入 選 焼きいもが焼きあがるまで待ちきれず

城東小学校 6 年 近藤 拓空

入 選 かれ落ち葉風に吹かれておどりだす

城東小学校 6 年 瀧本 希佳

入 選 夕やけがわたしの影をうつしてる

城陽小学校 6 年 若林 紗帆

入 選 てれやさん真っ赤にそまる秋の山

城陽小学校 6 年 島津 心暖

入 選 ひらひらと真っ赤なもみじ落ちていく

城陽小学校 6 年 内堀 空海

入 選 ほしがきがもう食べごろの季節だよ

金城小学校 6 年 廣 あかね

入 選 運動会絆をつなぐラストラン

金城小学校 匿名

入 選 もみじの葉赤く色付き散りゆくよ

平田小学校 6 年 高木 千聖

《中学生》

特選 公園の広さが全部蝉しぐれ

西中学校 1 年 中嶋 大智

(評) 公園へ一歩足を踏みこんだ作者、静かにベンチに腰を掛けて読書などして
いると、公園の中が蝉の鳴き声で一杯である。
蝉しぐれとは蝉が多く鳴きたてるさまを、時雨（しぐれ）の音にたとえて
いう語。「広さ」が少し気になるが、省略ということも大事である。着眼点も
良く、更に精進されることを祈る。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 ふくろうの鳴く声響く夜の森

中央中学校 3 年 原 智哉

(評) ふくろうの鳴く声を聞いて一句にまとめられた作者、ふくろうは、城山で
も聞くことがある。ほうほうと鳴く声は淋しく悲しいものである、勉強中の
作者がふと耳にしての一句。落ち着きのある一句。きつと詩心のある作者だ
と思う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 遠くから悲しく響く鹿の声

中央中学校 3 年 塚本 瑞葵

(評) 奈良の若草山に行ったとき麓に宿をとり夜中に何か鳴声を聞いた、それが
鹿の鳴く声だと教えられたこと、何となく物悲しい声にそれが鹿の声だとい
うことは今も忘れられないことである。中学生にしてなかなかの名句だと思
う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 雪だるま一人じゃ寂しいもうひとり

鳥居本中学校 1 年 吉田 行輝

(評) 古くは丈六仏（じようろくぶつ）などを雪で作ったので達磨を含め「雪仏」
ともいった。
作者は一つでは寂しからうと思いい、その横にもう一つ作ったのである。そ
して感心したのは雪達磨を人でないものを人に擬して表現したことに感心し
た。また次の作品が楽しみである。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 初夢は家族みんなで富士山に

西中学校 1 年 田附 城

(評) 初夢は元日の夜に見る夢。また、正月二日の夜に見る夢を言う。作者は家
族そろって富士山に登ったか、またその様なことが実現すればとの願望かは
わからないが、それはそれで良いと思う。夢で見たのなら楽しい一日であつ
ただろうに新年にかける夢ならそれもそれで良い、新しい年にむかつて大い
に羽ばたかれることを願う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 風にゆれ夕日が照らすすきの穂

西中学校 1 年 三原 侑奈

(評) タぐれの湖畔あたりの景色をうまくとらえられている一句。
沈みゆく夕日に照らされてすすきの穂が風にゆれ金色か銀色かに、光り輝き
一枚の絵画を見る様である。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 寒椿赤く華麗に咲き誇る

中央中学校2年 上野 愛

(評)

赤い寒椿によく目が止まりましたね。
早咲きの椿は寒中に咲くところからこれを寒椿という。
白いのもあり作者は赤い寒椿が寒さにも、雪の中でも華麗に咲いている、
心優しい作者だと思う。これからこの調子で景色や事物をありのままにう
つし取って下さい。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 肌寒にあと十分と思う朝

中央中学校2年 杉本 智咲

(評)

肌寒は秋深くなって、大気を肌にしやりと寒く感じることである。
あと十分。何だろうね。ベッドから出る時登校するために家を出る時間、
作者にとつてその十分が大切な時間だと思ふ。その時間を有効に使い切るこ
とによつて、作者の願いがかなう時がきつと来る筈と思ふ。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 秋晴れの湖面にうつる逆さ富士

中央中学校2年 北川 将真

(評)

湖や海の水面にさかさまにうつった富士山の影、雪の積った富士山はとり
分け美しい。逆さ富士をうまくとらえた作者。
写生に徹しているが、もう少し心情も入れられたら、なお句が生きくると
思ふ。句を作る回を重ねるごとに句に心が入って来る。沢山作る度に上達し
て行くことと思ふ。一層の努力をされることを願う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 滝の音聞える静かな山の中

西中学校2年 高井 優希

(評)

ある山中に行かれた作者。ただ聞こえて来るのは滝の音ばかり、ごうごう
と落ちる滝音のすごさは紀伊の山中でも経験したことがある。それを一句に
まとめた作者。出来そうで出来ないのを軽く言つてのけたことにそこで一歩
踏み出し、何を考えたか、もう少し深く心の写生をすれば名句になると思ふ。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

佳作 雪だるまとっても大事な友達だ

鳥居本中学校1年 居川 夢歩

佳作 授業中窓の外では雪が舞う

鳥居本中学校1年 西川 由真

佳作 雲の峰新しい山がまたふえる

西中学校1年 尾本 雄基

佳作 赤とんぼ夕日の下で羽ひろげ

西中学校1年 雨森 美結



佳作 すずむしや秋の空下大合奏

西中学校 1 年 久門 ゆめ

佳作 部活動秋風しみる帰り道

西中学校 1 年 諸岡 鈴

佳作 きれいだねうすばかげろうひらひらと

中央中学校 2 年 澤田 拓海

佳作 月光是闇を色どる光かな

中央中学校 2 年 青木 高宏

佳作 いちじくの甘い匂いがさそつてくる

中央中学校 2 年 中尾 旭

佳作 秋の声耳をすませて聞きとめる

中央中学校 2 年 大森 百乃

佳作 雪が降り違って見える帰り道

鳥居本中学校 2 年 宮尾 紗希

佳作 雪だるま小さくなって消えてゆく

彦根中学校 3 年 藤堂 永花

佳作 めいげつやつかれをとかすじゆくがえり

中央中学校 3 年 吉田 実里

佳作 秋がきた多くの山がそまってく

南中学校 1 年 奥田 蓮斗

佳作 コスモスが揺らすそよ風髪撫でる

中央中学校 2 年 十河 麗



入選 体育祭心を一つに戦かった

中央中学校 2 年 近藤 大晟

入選 木枯しが頬をなでゆく帰り道

中央中学校 2 年 松本 小鈴

入 選 かあさんの手編みの手袋ぽつかぽか

中央中学校 2 年 澤村 聖

入 選 懐かしき匂いは風に金木犀

中央中学校 2 年 大野 友璃弥

入 選 帰り道見上げる空に鰯雲

中央中学校 2 年 田中 芽以

入 選 渡り鳥大群つくりどこまでも

中央中学校 2 年 松本 皐佑

入 選 ひまわりの凜凜しい姿輝いて

西中学校 2 年 山口 有紀乃

入 選 肌寒い部活帰りの体操着

西中学校 2 年 藤田 雅大

入 選 口の中ほのかに香る彦根梨

稲枝中学校 3 年 押久保 皓生

入 選 雪だるま短い間お友達

稲枝中学校 3 年 成宮 亮太

入 選 飼いねこが毛布にもぐり身を隠す

稲枝中学校 3 年 北川 果琳

入 選 運動会子供の笑顔が輝く日

中央中学校 3 年 神山 栞摘

入 選 湯豆腐を食べると心あつたまる

中央中学校 3 年 疋田 康太

入 選 一年の出来事思う大晦日

中央中学校 3 年 北村 友梨奈

入 選 セーターをあむ母を見て和やかだ

中央中学校 3 年 山田 雄大

入 選 ペガサスが冬の夜空にいないで

中央中学校 3 年 森 優月

入 選 両の手をこすり合わせて息白し

中央中学校 3 年 筏井 真帆

入 選 せせらぎの音に混じりて蛩とぶ

西中学校 3 年 小谷 歩夢

入 選 梅が咲き新たな道への第一歩

西中学校 3 年 前川 奈月

入 選 初日の出あびて輝く彦根城

西中学校 3 年 嶋田 愛佳

入 選 道歩み落ち葉の会話を耳に聴く

西中学校 3 年 吉原 佑哉

入 選 彦根城うつくしかな雪化粧

東中学校 3 年 桂田 洸平

入 選 けやき道桜舞い散る石畳み

東中学校 3 年 西本 龍也

入 選 お堀ぞい桜舞い散る彦根城

東中学校 3 年 谷口 悠

入 選 彦根城直弼も見た雪景色

東中学校 3 年 小野 僚太郎

入 選 こもれびの光に花が照らされる

東中学校 3 年 薄井 美優

入 選 雪の日に親子でつくる雪だるま

東中学校 3 年 田中 詩乃

入 選 秋の風もみじがきれい彦根城

東中学校 3 年 藤田 滉稀



【総評】

各学年それぞれ沢山の応募をいただきました。季語（季題）もきちんと詠み込まれていて、全体に充実している様に感じられました。

大人と違って、決まりきった様に詠まない感覚の素晴らしさ、日常生活から生まれ出る俳句の新鮮さが頼もしく、心丈夫に思いました。

高校生になると、俳句甲子園もあります。これを機にどんどん俳句をし、発表して全国に大きくはばたいていただくことを、願っております。

（彦根文芸協会 北川 栄子）

今年もたくさんさんのキラキラ光る句がありました。三年生・四年生の句では、季節の動植物や自然をよく見て、自分のことばで表現できていて感心しました。

しかし、もっとすばらしい句を作るためには、次のことに気をつけてください。

・まず、俳句にとりあげるものをしっかり見つめ、よく観察してください。すると新しい発見があります。これを自分のことばで句にしてください。

・季語（季節の感じを表わすことば）を入れて句をつくってください。

・俳句は、五・七・五の十七文字ということで、ひらがなばかりの十七文字のことば句がたくさんありました。習った漢字はつかって書いてください。わかりやすい句になります。学校行事（遠足、水泳、運動会など）や地域の行事（正月、地ぞう盆、祭、節分、クリスマスなど）もチャレンジしてください。

すばらしい句を期待しています。

（彦根文芸協会 藤田 治夫）

「ひこね子ども文芸作品俳句の部」も曲がり角に来了。芭蕉や蕪村の句が、ある小学校五年の応募句の中にあつた。指導者は提出前に目を通していいのだろうか。「荒海や佐渡に横たふ天の川」を知りませんでしたではすまないだろう。ルールをしっかりと教えて応募させるべきだろう。市の水泳大会にリレーのルールも教えず練習もさせず、タイムもはからず出場させるだろうか。猛省を促す。小学生の応募作には「くり食べばかねがなるなりほうりゆうじ」もあった。

五年の市の水泳大会にオリンピックの選手に代って泳いでもらい、ぼくは早いぞといってみたってみんな大笑いだ。有名な俳人の句を自分の作だと応募するのは、盗作といって大変はざかしいことなのだ。お友達の失敗からみなさんもぜひ学んでいただきたいと思う。どこかちよつと変えただけのものまね俳句もいけない。へたでも自分で作るところに楽しさがあるのだとわかってほしい。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

沢山の応募に中学生諸君に意欲を感じた。しかし中には季題を並べただけのものもあり淋しさを覚えた。一読してすぐに覚えられる調べをもっているのが名句の一つの条件、名句には名句として認められる内容がつまみであるはず、季題を風詠（ふうえい）することによって人々のやり場を見出すものがすなわち俳句である。私も季題をいかに一句にとり込むかを絶えず選句の中心に考えている。「平明にして余韻のあるもの」こそが選句に占める大きなポイントでもある。

（彦根文芸協会 野瀬 章子）

川柳

〈小学1年生・2年生〉



特選 てつぼうはできるよわたしまわれるよ

城東小学校1年 将亦 莉星

(評)

なんどもれんしゅうして、てつぼうができるようになりました。そのうれしきもちが、「わたしまわれるよ」でよく現れています。くりりとまわって見せてくれるようですが、目にうかぶ、とてもいい句になりました。

(彦根文芸協会 今井 和子)

特選 きれいだなはっぱのいろがかわったよ

城陽小学校1年 木村 実有那

(評)

みどりの春から夏がすぎ、秋になるとだんだんはっぱのいろが赤や黄いろになってきました。このいろが変ってきたように、気がついて「きれいだな」と秋のけしきのまん中にいるあなたがよく現われていますね。

(彦根文芸協会 今井 和子)

準特選 はるのひにちょうといっしよによーいどん

城西小学校2年 青山 ゆづ希

(評)

長い冬のトンネルをぬけて、花やちょうといっしよにはじめていく気持ちを、「よーいどん」にこめた表現がすてきでした。春ののどかさを花やちょうにたくしている、作者の思が伝わってくるよい句でした。

(彦根文芸協会 知野見 松子)

準特選 あつしにはわたしのおひざちようどいい

亀山小学校1年 田中 美結

(評)

小さな弟をお守りしている、ちよつとおしやまな女の子のやさしさを感じました。いつまでも、その感性とやさしさを失わないでね。

(彦根文芸協会 知野見 松子)

準特選 けいさつかんぼくもなりたいがんばるよ

高宮小学校2年 榎木 悠人

(評)

かっこいい制服姿の警察官にあこがれる少年のすなおな気持と、がんばるという明日へのきぼうが感じられる力強い句にひかれました。

(彦根文芸協会 知野見 松子)

準特選 たこ上げはぼくの思いで空にうく

佐和山小学校2年 山本 めい

(評)

寒風の中でたこあげをしている作者、けんめいに糸をあやつっている、先にはとても不安定なたこ。いっしょうけんめいにしゅうちゅうしているようすがうまく表現されているよい句でした。

(彦根文芸協会 知野見 松子)

準特選 おとうさんおこるとこわいでもすきだ

高宮小学校2年 平井 啓太

(評)

きつとすてきなお父さんなんだよね。あぶないこと、してはいけないこと、きちんと伝えられるお父さんはまさに大黒柱、そういうお父さんをだいすきだという気持を大切に。

(彦根文芸協会 知野見 松子)

佳作 六年生そつぎようしてもまたきてね

城西小学校2年 堀江 優那

佳作 もみじの木赤いようふくきれいだね

佐和山小学校2年 畑野 蒼衣

佳作 学校はいつもえがおがいっぱいだ

城東小学校1年 清水 彩音

佳作 ぼくのいぬ人がすきすぎてあばれるよ

城西小学校2年 今居 秋羽

佳作 にこにこでこころのノートひらきます

亀山小学校2年 森田 咲良

佳作 ともだちとかげさんしょうぶかちたいな

城西小学校2年 守川 瑞希

佳作 はっぴようはきくときくほどつかれるな

城西小学校2年 北川 翼

佳作 じょう東はびわこマラソンがんばるぞ

城東小学校2年 佃 直樹

佳作 しのあんしょうおぼえるたびにおもしろい

城東小学校1年 東光 大和

佳作 九九ならいかおみるたびに九九出され

亀山小学校2年 山本 翔

入 選 しょうひぜいどんどん高くなってるよ

鳥居本小学校2年 大城 奏琉

入 選 おとうとはかおがもちもちいいな

佐和山小学校2年 矢田 雅

入 選 おふとんは家ぞくみんなのあそび場だ

城南小学校2年 山口 桜都

入 選 いもうととままごとやるとつかれたよ

城西小学校2年 西川 奈穂

入 選 しゅくだいいつも山もりたいへんだ

佐和山小学校2年 宮本 航志

入 選 はれた日にうみをみてるよおじいちゃん

城東小学校1年 森 このか

入 選 おちばがねかぜにゆられてあそんだよ

城陽小学校1年 森野 芽依

入 選 マラソンははしるところけてぬかされる

城西小学校2年 林 実夢

入 選 魚さん冬でもさむくないのかな

金城小学校2年 村上 夕介

入 選 おしやべりをもみじゆらゆらたのしそう

金城小学校2年 川原 結衣

入 選 おてつだいぼくもできるよくつそろえ

城東小学校1年 脇坂 草介

入 選 おてつだいぼくでできるんだおふろいれ

城東小学校1年 北村 亮介

入 選 赤とんぼ空に広がりのしそう

佐和山小学校2年 増田 結

入 選 どんぐりでいろんなものをつくろうよ

城東小学校2年 山田 瑚雪

入 選 生きものはいいわるしたらしんじやうよ

城西小学校2年 松本 寛汰

入 選 どんぐりがころんとおちてかわいいな

城東小学校2年 藤野 玲華

入 選 れいぞうこさむいねさむいれいぞうこ

城東小学校1年 ベルナベ ナオミ

入 選 きんようびあしたはやすみにしよう

城東小学校2年 高宮 光樹

入 選 とんねるはいつもくらくてこわそうだ

城西小学校2年 成宮 結太

入 選 黒ばんをふいていたら絵が出たよ

鳥居本小学校2年 利根川 恋々

入 選 ひみつきちばしよはぜつたいないしよだね

城西小学校1年 高木 健伍

入 選 にちようびけしきをみながらおべんとう

城西小学校1年 西田 千夏

入 選 つくえぶききれいにするよぴかぴかに

城東小学校1年 川村 優奈

入 選 カブトムシのがはえててかつこいい

鳥居本小学校1年 土田 瑚々菜

入 選 かなとくんいつもやさしいありがとう

城西小学校2年 榛葉 悠斗



《小学3年生・4年生》

特選 おにぎりっこおにつかまり楽しいな

城北小学校3年 上原 晃貴

(評)

おにつかまって楽しいという感覚がおもしろいです。けいけんしたそのまを書いたのだからうけれど、つかまえて楽しいという人はそう多くはないと思います。ほんとうにおにごっこが好きなんだろうな。笑い声が聞こえて来るようです。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

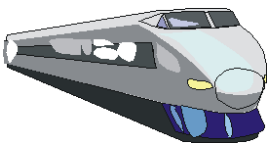
特選 米原駅ドクターイエローつうかする

城東小学校3年 市村 孝仁

(評)

米原駅にいたときドクターイエローが通過した。それだけが書かれているのだけれど、すごいすごい、やったやったの気持ちがいっぱい分かります。新幹線点検用の七両編成の電車はあつという間です。写真は撮れたかな。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



準特選 夜の空きれいな星が空にある

城東小学校3年 北川 凜菜

(評)

おとなはこんな「そら」が二回出てくる句を作れませんか。なにかきみような絵を見ているような感じで読んでいます。きれいな星がいてくれるうれしい空と、遠くて手の届かないさびしい空をどうじに味わっています。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 カキーンと昨日の試合でヒットでた

城北小学校4年 小山 叶翔

(評)

かいしんの当たりとその手ごたえ。わすれられないですね。もう一度あんなヒットを打ちたいという一心で今日もまた練習です。素振りです。そして明日は、みんながびつくりするようなスゴイ三振をするのですよ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 木はぐんとわたしのたかさこしてゆく

金城小学校4年 宮川 あかり

(評)

わたしの背も伸びているはずだけれど、いつの間に、木はあんなに高くなったでしょう。庭かどこかにうえて、水もやったことのある木でしょうか。「ぐんと」がそのおどろきやちよつとしたこわさをうまくあらわしていると思います。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 雨がふる明日はきつと晴れないな

鳥居本小学校 4 年 居川 陽音

(評)

夜の雨ですね。このまま明日も晴れないと思う。とぼけた感じが面白いです。「晴れないな」だからどうなんでしょう。寝坊しようとか、本をよもうとかでしょう。でも晴れるんだよね。川柳をするひとはそんな朝も、ありやりやと頭をかいて、朝寝坊。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

佳作 おかえりといつも変わらぬ祖父の声

城東小学校 4 年 山田 楓勇紀

佳作 クスノキはただ一本の大きな木

城西小学校 4 年 大谷 創志

佳作 四つの輪え顔いっぱいおどります

城西小学校 4 年 前川 瑚香菜

佳作 秋晴れのコスモスゆれる午後ですよ

城西小学校 4 年 水谷 聖

佳作 音楽会じょう熱大陸ノリノリだ

城西小学校 4 年 杉本 迅

佳作 学校こけてこけても立ち上がる

鳥居本小学校 4 年 居川 侑右

佳作 来年は組体そうだ出来るかな

城西小学校 4 年 吉居 咲結

佳作 お月さんねむたくないねなぜだろう

若葉小学校 3 年 福田 菜々子

佳作 大変だ漢字多いぞ四年生

城西小学校 4 年 中井 翔太

佳作 月見台きれいな景色見えますよ

城西小学校 4 年 西川 海友

入選 ブランコでゆらゆらゆれて風フワリ

稲枝東小学校 4 年 赤田 遥香

入選 山道でいろんな声をひろったよ

城陽小学校 4 年 三好 香穂

入選 おいしいな自分で作るたまご焼き

河瀬小学校 4 年 所 晴生

入選 しやちほこは天守の上についている

城西小学校 4 年 高尾 秀穂

入選 すず虫のリズムにのっておどりだす

城西小学校 3 年 中谷 篤司

入選 いろいろな風景見つけにどこまでも

城北小学校 4 年 山崎 由稀奈

入選 図書館毎日行って本を読む

稲枝東小学校 4 年 勝城 芽泉

入選 ことしもねリンゴをおくよひよどりに

若葉小学校 3 年 洞田 珠宙

入選 下校中あしたのことを考える

稲枝東小学校 4 年 明石 怜子

入選 ぼくたちは勉強して生きていく

城西小学校 3 年 尾関 和大

入選 このあいだインコがにげて雪がふる

城東小学校 4 年 宮永 燎

入選 おやさいをもりもり食べれば元気出る

城西小学校 3 年 飯塚 莉子

入選 さつまいもうんとこしょと重たいな

城西小学校 3 年 村田 侑磨

入選 たん生日お肉のあとはチョコケーキ

若葉小学校 4 年 田村 優衣

入 選 しつかりと勉強したらうでがなる

城北小学校 4 年 井 崎 大 耀

入 選 おおさかに会いたい人がまっている

城東小学校 3 年 小 林 ゆ め

入 選 二百回ぞうきんがけをなしとげた

稲枝東小学校 4 年 生 駒 朋 那

入 選 ゴミひろいたくさんあるとつかれるね

城西小学校 3 年 村 田 脩 斗

入 選 ラッキー今日の給食はチキンだよ

稲枝東小学校 4 年 森 野 天 音

入 選 ゲームをねしようとしたら電池ぎれ

城東小学校 3 年 木 島 晃 樹

入 選 パソコンでゲームしすぎで目がえらい

鳥居本小学校 4 年 原 有 彌

入 選 大なわでさいこうきろくめざすんだ

城北小学校 4 年 西 村 理 久

入 選 さんかんびしずかなクラスいわかんだ

若葉小学校 3 年 澤 咲 愛

入 選 母さんはいつもビシビシおこってる

城北小学校 4 年 伊 藤 珀

入 選 こがらしが追いかけてくる城の街

城西小学校 3 年 小 川 朋 子



《小学5年生・6年生》

特選 文化財守っていこうぼくたちが

城西小学校5年 西村 涼子

(評)

私達の町、彦根は城下町ですから、昔からの価値ある文化財が、大切に守られています。それを将来あるあなた達が引き継いで大切に保存されれば、きっと彦根城も喜ぶでしょう。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

特選 名前には大切な思いつまってる

若葉小学校6年 塩田 芽生

(評)

子供が生まれた時、お父さん、お母さんの喜びようが目に見えます。そして日本一、いや世界一のよい名前をあれこれ考えて、つけていただいた名前です。大切にしましょう。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)



準特選 オニバスを百年後まで残したい

若葉小学校6年 山田 美月

(評)

彦根城の北側に群生している、美しいオニバスの花は、見る人をうつとさせます。その美しい花が百年後も枯れずに、咲いていて欲しいです。私も同感です。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

準特選 善利組の足軽屋敷歴史あり

城西小学校5年 武富 真優

(評)

彦根市の中心に広がる所、今も残る足軽屋敷の狭い通りを歩く時、ついなつかしささえ覚えます。今は車会社になり、そこは時間が止った様に静かですが、歴史の証人です。大切にしたいですね。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

準特選 しなが折れ集中力もまた切れる

城東小学校6年 大久保 真紘

(評)

シャープペンの芯が折れて、がっかりしたのでしょうか。丁度よい機会です。ひと休みしてはどうですか。切れた集中力も、またファイトがわいてくるでしょう。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

準特選 満月が走る車についてくる

城北小学校5年 宮本 萌生

(評) 動いているのは車の方ですが、反対に月が動いてついてくる様に見えます。
だまし絵みたいでおもしろいです。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

準特選 学校は今年で百二十五才すごいんだ

稲枝東小学校5年 室井 宏太

(評) 歴史ある学校ですね。お父さんも、おじいさんも、そのまた上のご先祖さんも学ばれた学校ってすごいですね。大切にして下さい。

(彦根文芸協会 加藤 佑子)

佳作 山の色黄色から赤に変わったよ

若葉小学校6年 鵜野 結羽

佳作 おいしくてほったおちる彦根なし

若葉小学校6年 池田 直哉

佳作 家の中外までひびく笑い声

鳥居本小学校5年 矢吹 碧梅

佳作 本読んでいろいろ知ったうれしいな

城東小学校5年 入江 華

佳作 さつまいもホカホカしてておいしいな

若葉小学校6年 松下 瑠海

佳作 マラソンはつかれるけれどがんばるぞ

平田小学校6年 柴田 亮

佳作 彦根城彦根の大事な宝物

若葉小学校6年 西村 翼沙

佳作 パンかじりダッシュしたら間に合った

佐和山小学校6年 大澤 柊斗

佳作 やめようよはもののようなその言葉

佐和山小学校6年 大林 あみ

佳作 運動会絆を深め優勝だ

佐和山小学校6年 杉村 璃琉

入選 金閣寺きんきらきんですごかった

佐和山小学校 6年 竹久 瞬

入選 ただいまと帰るわが家にネコが待つ

佐和山小学校 5年 河上 聖佳

入選 大なわで息を合わせてがんばった

稲枝東小学校 5年 竹田 美穂

入選 イチヨウの葉青から黄色衣がえ

稲枝東小学校 5年 大村 仁衣菜

入選 秋の風花がゆらゆら歌ってる

城東小学校 6年 立澤 茉弥

入選 わすれないはじめてできた友だちを

城東小学校 5年 藤居 柊太

入選 けんかなし笑顔いっぱいいいクラス

城西小学校 5年 悦 悠斗

入選 石膏像魂こもって喋べりそう

城東小学校 5年 佃 颯真

入選 びわこにはコイフナモロコいっぱいだ

城西小学校 5年 野上 帆風

入選 朝ねむいスズメの声で目覚める

鳥居本小学校 6年 東出 修弥

入選 ありがとうそう言う友の笑顔好き

城陽小学校 6年 疋田 愛里

入選 人間は年々進化する生き物だ

城西小学校 5年 矢野 紗雪

入選 仲間とのきずなが大事ウオークラリー

城北小学校 6年 諸田 遥人

入選 秋の夜月の下に彦根城

若葉小学校 6年 横山 礼貴

入選 彦根城世界遺産をめざすんだ

若葉小学校 6年 奥田 紗由

入選 弟とけんかもするが大好きだ

鳥居本小学校 6年 立岩 結花

入選 スポーツがたくさん動いて汗かこう

城陽小学校 6年 武内 宏斗

入選 楽しみは家でゲームをするときだ

城陽小学校 6年 利光 幸一郎

入選 あったかい家族みんなでこたつだね

鳥居本小学校 5年 渡邊 恵奈

入選 彦根城ひこにゃんがいて町おこし

若葉小学校 6年 岡田 華美



《中学生》

特選 落書きは日々の思い出消さないで

南中学校 3 年 福原 菜央

(評)

「落書き」これは、心の中への書き込みでしょう。三年間の中学生生活「楽しいことや、辛いこと」数えあげれば切りがありません。思い出が多い程、大人になってから役に立つものです。大切にしまっておきましょう。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

特選 テスト前襲う睡魔と決闘中

南中学校 2 年 石留 亜美

(評)

毎日の受験勉強で、睡眠時間があまり取れていません。今夜も家族が寝静まったあと、懸命にペンを走らせています。予告なく睡魔が襲って来ます。自身との戦いを、巧みに表現した頼もしい一句になりました。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

特選 ありのままそれがいちばんむずかしい

南中学校 2 年 戸田 樹

(評)

思春期になると、とかく背伸びして人と付き合うことが多くなります。難しい不安定な年頃、と言っても過言ではありません。一步一步真つすぐに、中学生生活を送ってください。作者は既に理解しているようです。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 勉強は大人になっても終わらない

南中学校 2 年 岸田 涼

(評)

人は一生勉強です。勉強にスポーツ、共に毎日頑張っている姿が想像できます。「勉強は大人になっても」この言葉が非常に素晴らしい。社会人になっても惜しみない努力の持ち主だと思います。将来が楽しみです。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 そのマスクあなた本当に風邪ですか

南中学校 2 年 宮田 雄大

(評)

きのうまで、何の変化もなかった友人。気が付くと顔には大きなマスク、尋ねても返答がない。どうしたのだろう・・・？。思わず笑ってしまい。そんな「問いかけるような句」ユーモア溢れる楽しい作品です。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 先生と目をあわせるとあてられる

南中学校 2 年 島田 理帆

(評)

中学生になると手を上げる友人もあまりなく、消極的になりがちです。ふと、顔を上げると先生と目が合った。早速名前を呼ばれる。思い付くままに答えた、合っていた。授業中の一コマを旨くまとめられています。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)



準特選 努力しよういつか大きな花が咲く

南中学校 2 年 櫻井 桃花

(評)

日々頑張っている至誠(しせい)が伺えます。スポーツでも、勉強でも何でも良いのです。歩幅は小さくても一歩一歩着実に進んでください。いつか希望の花が咲くことでしょう。世界一大きな花を咲かせてください。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 中学校エンジョイするぞ最後まで

南中学校 3 年 水野 和佳奈

(評)

“ファイト” “ファイト” その調子です。残り少ない中学生生活。今のうちに、思うまま存分に楽しんでください。受験勉強も必要でしょう。そして志望校を目差して頑張りました。力強さが溢れる素晴らしい句です。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)



準特選 流すのはどっちの涙受験生

南中学校 3 年 日夏 一輝

(評)

「受験生」とは、自分のことを言っているのです。高校入試のために一生懸命頑張っている。でも、結果を出すまでは答は出ない。これは自分との戦いを何げなく詠んでいます。思いが伝わり上手に表現しています。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 ピアノはねみんなの心そめるもの

南中学校 2 年 加藤 瑛梨

(評)

学校の音楽室や、春の路地を歩いていると、どこからともなく聞こえてくる音色。情景が素直に目の前に浮かんで来ます。ピアノの音色が沈んだ心を温めてくれる作者を想像させる、優しい句ができました。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

佳作 三者こん一番気になる親の顔

南中学校 3 年 岩崎 友哉

佳作 色えんぴつ僕は赤色太陽だ

稲枝中学校 1 年 谷崎 レオナルド

佳作 勉強より自由があつたらいいのにな

南中学校 2 年 角田 梨穂

佳作 買い物にいつも連れられ荷物持ち

南中学校 2 年 川島 光生

佳作 紅葉が落ちてしまうとテストかな

南中学校 3 年 川畑 圭右

佳作 いじめゼロみんなが君を呼んでいる

南中学校 3 年 佐々木 悠華

佳作 学級は団結力が生まれるね

稲枝中学校 1 年 廣寄 由姫

佳作 きらきらと流れて行くよお星様

鳥居本中学校 1 年 安澤 嶺

佳作 皆に感謝気持ちを込めてありがとう

南中学校 1 年 西澤 瞭

佳作 朝練習気合いを入れて半そでだ

南中学校 1 年 西村 竜之介

佳作 寒い朝布団と勝負どっち勝つ

彦根中学校 2 年 高橋 亮成

佳作 先生におこられるのは日課です

南中学校 1 年 疋田 菜乃

佳作 部活とはみんなの素顔見える時

南中学校 2 年 宗安 郁真

佳作 受験生休みはいつだ半年後

南中学校 3 年 辰巳 菜穂

佳作 切りかえろそれがはじめのだいっぱ

南中学校 2 年 堀田 頼紀

入選 テスト前満点の自信あったのに

南中学校 3 年 種毛 利樹

入選 暑い中協力し合った体育祭

稲枝中学校 1 年 小宮山 由喜

入選 この川柳考えるのに苦労した

南中学校 3 年 小椋 誠斗

入選 毎日が勉強さんまい疲れるな

南中学校 3 年 西川 結菜

入選 受験生家族の期待プレッシャー

南中学校 3 年 疋田 朱梨

入選 勝ち取るぞ合格という二文字を

南中学校 3 年 山田 まき

入選 弟よ最近兄をなめてるな

南中学校 3 年 久保川 樹

入選 しゅくだいを忘れてろうかにたっていた

南中学校 2 年 小田柿 昂洋

入選 寒い朝目覚まし時計聞こえない

南中学校 1 年 山中 千畝

入選 テスト前勉強しなさいききあきる

南中学校 2 年 小漆間 菜美

入選 ありがとう自分も相手もいい気持ち

稲枝中学校 1 年 本田 彩亜紗

入選 午前中待ち遠しいのは昼ごはん

稲枝中学校 1 年 河合 弘翔

入選 白い息冬を感じる季節だな

南中学校 1 年 中村 郁穂

入選 受験生楽しいことはあとまわし

南中学校 3 年 薄井 彩果

入選 合唱コンめさせ金賞がんばろう

彦根中学校2年 川島 有加

入選 あおぞらにあまいわたがしろいくも

南中学校2年 中寫 隆人

入選 たすけてよ川柳何もうかばない

南中学校2年 馬場 豊磯

入選 サンタさん煙突ないと入れない

南中学校1年 北川 温子

入選 笑いありほっこり絆うまれてく

南中学校1年 長尾 祥吾

入選 流れ星必死に唱える願い事

鳥居本中学校3年 山崎 春香

入選 きゆうけいの10ぷんかんはみじかいな

南中学校2年 川島 伝竜

入選 根気よく最後に努力逆転へ

南中学校2年 寺村 拓夢

入選 漢検を受けても解答ほぼ書けん

南中学校2年 池田 裕史

入選 冬だけどクラスはやっぱりあたたかい

南中学校1年 牧野 真央

入選 休日も塾が終れば暇なっしー

南中学校3年 宮川 明瑠夢

入選 声でかいどなる先生声でかい

南中学校2年 疋田 龍心

入選 上げたらねダメよダメダメ消費税

南中学校2年 野上 凌介

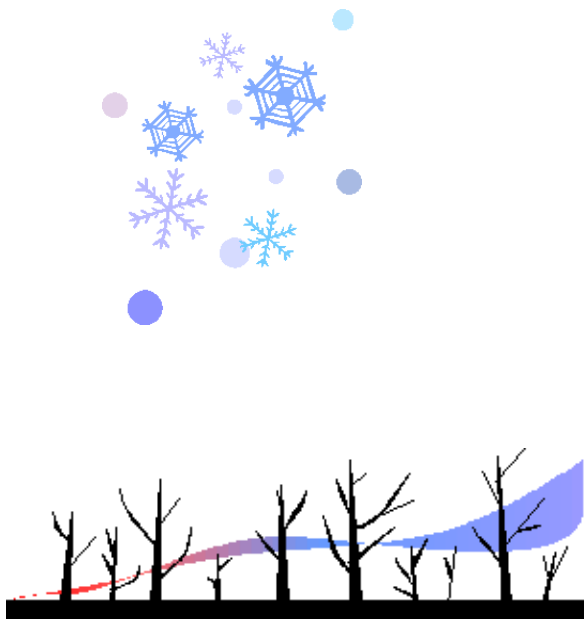
入選 朝ごはんしっかり食べて元気とる

稲枝中学校1年 面田 慧至

【総評】

二十二年度から始まった子ども文芸作品。川柳部門では、どの学年も応募数が年々増えて、全体では約千二百句以上増加しました。ご応募嬉しく思っております。三千二百余もの中から、一句一句丁寧に審査させていただきました。頼もしい句、ユーモア溢れる句などがあり今後に期待しております。反面、一般論のような作品もあり、また、全て平仮名で詠まれている句が非常に多く残念です。特に中学生は、習った漢字を遣うことをお勧めします。平仮名で詠まれると、句によっては力強さを欠く結末を招くことになります。もう一度、自分自身を見つめ直してください。出来事をそのまま書くのではなく、思いを深く届けてください。日常生活の中で句の材料は整っています。来年度は、今年度よりも一層個性豊かな若さ溢れる表現力を、子どもたちに期待して止みません。

（彦根文芸協会 須田 さゆり）



短歌

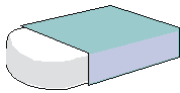
〈小学1年生・2年生〉

特 選 ゴシゴシとがんばっているケシゴムは
ちいさくなってへやでねている

城東小学校2年 東川 拓翔

(評) ケシゴムの「ゴシゴシとがんばっている」の動く状態と、「ちいさくなってへやでねている」の静まっている状態の対比が具体的であり、面白い。「へや」は筆箱でしょう。

(彦根文芸協会 島野 達也)



準特選 お月さまながめてたべたおだんごは
おんなじ形まるまるしてた

城南小学校2年 山口 桜都

(評) お月見の歌。眺めていたお月さまと、眺めながら食べていたお団子が、おんなじ形、しかも、それを「まんまる」だという。何の作為もない歌ごろろが好ましい。

(彦根文芸協会 島野 達也)



佳 作 クロールが泳げるようになりたくて
ボクががんばったすいえい教室

金城小学校2年 村上 夕介

入 選 かきごおりアイスクリームつめたくて
あついなつでもすずしくなれる

城西小学校2年 房野 ななみ

《小学3年生・4年生》

特選 木の葉とね木の葉があくしゅしているよ

緑のトンネル作っているよ

城南小学校4年 岡田 みのり

(評)

木の葉と木の葉が握手して、緑のトンネルを作っているという発想が素晴らしい。また、上の句と下の句の結びの「よ」もうまく響きあって歌にリズムを与えている。

(彦根文芸協会 島野 達也)

準特選 乗りこんだしっかり切符をにぎりしめ

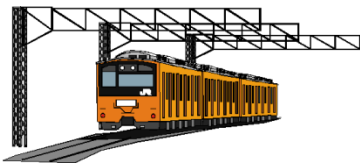
今から始まる初一人旅

城東小学校4年 山田 楓勇紀

(評)

「しっかり切符をにぎりしめ」という具体的表現に、今から始まる初めての一人旅への不安と意気込みが感じられて好ましい。

(彦根文芸協会 島野 達也)



佳作 秋晴れになかまとともにぐるぐると

走り回ったぼくらタイフーン

城南小学校3年 幸重 季空

佳作 天国のおじいちゃんにとどくかな

きれいな光万とう流し

城南小学校3年 勝木 藍

入選 しぶ柿が物干しざおにゆれている

まほうかかっていつ甘くなる

河瀬小学校4年 所 晴生

入選 友だちといっしょになかよくみつけます

どんぐりひろい秋の公園

金城小学校4年 北村 莉奈

入選 ありがとうこのひとことで咲かせよう

笑顔の種で満開の花

城東小学校4年 東川 唯花

〈小学5年生・6年生〉

特選 東大寺ハローではじまりサンキューで

世界の人々すてきな笑顔

城南小学校 6年 島田 幸帆

(評)

東大寺に外国の観光客からハローと声をかけられ何か尋ねられたのでしよう。次の行先への道案内かも知れません。最後にサンキューと笑顔に別れたその場の瞬間を余すなく表現できました。最高です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

特選 真っ白の大きなお空のパレットが

真っ赤に染まる誰のいたずら

城陽小学校 6年 菱田 晴香

(評)

空をパレットに見立てたことは発見です。真っ赤に染まる自然現象に明日の希望がわいて来ます。この夕日を詠みたいと思ったのは成功です。結句を「誰のいたずら」と詩的に詠んだことも良かったと思います。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 名月を笑顔でみてるわたしたち

月の向こうでうさぎも笑顔

平田小学校 5年 伊吹 彩希

(評)

日本には、中秋の名月を観賞する風習があります。上の句を、「名月を笑顔でみてるわたしたち」とし、下の句は、「月の向こうでうさぎも笑顔」と、地球と月を対にして、笑顔を二度使い発想の良い歌になりました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 楽しみは夜ねる前の本読みだ

読み始めると止まらない時

金城小学校 6年 桂田 滉也

(評)

「楽しみは夜ねる前の本読みだ」と上の句で言い切りました。下の句の「読み始めると止まらない時」で、具体的に心の内が表現でき良くなりました。あなたの楽しみの読書を続けて下さい。読書はこころの栄養です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 東大寺友といっしょに見る仏

心をやどる平和のちかい

城南小学校 6年 齋藤 竜馬

(評)

大仏を友と見ています。旅行の前に学校で東大寺の学習をされ、今日ある歴史を学ばれたのでしょうか。下の句の「心をやどる平和のちかい」が、心からのおのずと発する表現となりました。旅の前の学習、良かったですね。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 石舞台蘇我馬子がねむる墓

わずかなすきまに光さしこむ

城南小学校 6 年 西村 美久瑠

(評)

「石舞台蘇我馬子がねむる墓」の固有名詞がよく利いています。誰が読んでもわかるところがよい。「わずかなすきまに光さしこむ」と、下の句に実景をしつかりとらえて感性の良い詠みになりました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 たのしみは勉強の後自分部屋で

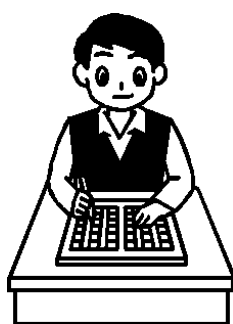
自作小説アイデア練るとき

平田小学校 6 年 塚本 涼葉

(評)

上の句で下の句の前置をし、それを受けて下の句「自作小説アイデア練るとき」と、すらすら詠みました。あなたの頭の中は、自作小説のアイデアがかけめぐっていることでしょう。希望が実現できますように。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)



佳作 秋の風落ち葉が舞ってる踊ってる

秋の夕日は満面の笑み

城東小学校 6 年 栗田 晴乃

佳作 空高く青に浮かぶはいわし雲

風にゆられてどこへ行くのか

城東小学校 6 年 宮尾 香菜美

佳作 たのしみは空手仲間と道場で

汗水たらし練習するとき

平田小学校 6 年 川上 さくら

佳作 たのしみは好きな音楽聴きながら

心をこめて歌い出す時

河瀬小学校 6 年 若林 春花

佳作 たのしみは休日の朝夕方に

ピアノに向かい練習する時

河瀬小学校 6 年 寺本 美月

佳作 音楽会最後の歌声ひびかせて

アンコールの声にこたえた合奏

金城小学校 匿名

佳作 さあ行こう琵琶湖一周自転車で

ペダルをふんで前へと進む

城北小学校 6年 菊地 歩

佳作 運動会みんな大きな声出して

応援だったらだれにも負けない

城北小学校 6年 藤田 龍也

佳作 赤とんぼ夕やけ雲と遊んでる

みんな仲よし楽しそうだな

城陽小学校 6年 若林 紗帆

佳作 たのしみは土日の休みゆつくりと

彦根城を散歩する時

高宮小学校 6年 中川 雅斗

入選 秋の日の夕焼け空にさそわれて

虫のなく声どこかさみしげ

城東小学校 6年 立澤 茉弥

入選 運動会終わった後は音楽会

まだまだ燃える自分の心

城東小学校 6年 大塚 智裕

入選 秋になり葉っぱが赤く大変身

緑の服から赤の服へと…

城東小学校 6年 川村 穂乃佳

入選 こがらしがふくと落ち葉がおどり出す

わたしの町にも冬が来たんだ

城東小学校 5年 村木 春桜

入選 秋の空夕やけ雲につつまれて

まっかにもえるほのおのようだ

城東小学校 5年 大森 菜々子

入 選 楽 しみはシテイマラソン去年より

タイムをちぢめてめざせ！五十位以内！

城北小学校 6 年 廣 渡 悠 斗

入 選 吐く息を手に吐きかけるあつたかい

冬の足音近づいてくる

若葉小学校 5 年 有 田 明 日 香

入 選 たのしみは勉強のあとまったりと

興味のことを考える時

河瀬小学校 6 年 上 林 愛 理

入 選 たのしみは家に帰って宿題し

ゆっくりソファで本を読む時

河瀬小学校 6 年 荒 木 菜 桜

入 選 たのしみは毎週土日集まって

みんなとボールをつなげる時

河瀬小学校 6 年 松 野 二 千 翔

入 選 たのしみは何も言わずに過ぎていき

一人無言で本を読む時

河瀬小学校 6 年 高 橋 芽 衣

入 選 たのしみは土曜と日曜サッカーの

試合でボールをけている時

河瀬小学校 6 年 川 嶋 那 央

入 選 たのしみは家に帰って部屋に行き

一人しずかに本を読む時

金城小学校 6 年 合 原 彩 夏

入 選 人々の苦労つまった大仏様

みつめるひとみ心がなごむ

城南小学校 6 年 北 川 た から

入 選 法隆寺太子が建てた初めての

古代の寺に歴史ただよう

城南小学校 6 年 奥 井 琴 音

入 選 楽 し み は 早 く 帰 れ る 五 時 間 の 日

みんなさそってサッカーする時

城北小学校 6 年 溝 尾 将 弘

入 選 楽 し み は 野 球 が で き る B E C の 日

上手な人と野球する時

城北小学校 6 年 川 瀬 大 悟

入 選 友 だ ち と た く さ ん 遊 び 帰 る と き

秋の空には真っ赤な夕日

城陽小学校 6 年 林 樹 咲

入 選 夕 や け が ふ た つ も あ る よ お か し い な

鏡のようにうつす湖

城陽小学校 6 年 ・ 村 渚 海

入 選 た の し み は 静 か な 部 屋 で 本 を 読 み

たくさん本を読み終わるとき

高宮小学校 6 年 伊 藤 真 緒



〈中学生〉

特 選 ごみ箱にまだ食べられる食べ物を

次々捨てると心が痛む

稲枝中学校2年 辻 賢人

(評) 短歌は詠む(歌を作る)人の心が読む人の心にどう共鳴できるかが、とても大切な要素となります。

この歌は、本当にそうだなあと思わせるものが強く表現されていて良いと思います。無駄な言葉もなく上手にまとめられました。

これからも良い歌を多く作って下さい。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 「ピッ」と鳴く機械に私は胸弾む

普段は分からぬコンビニの裏

稲枝中学校2年 青山 汐里

(評)

コンビニのレジの音でしょうか。何気なく聞いている音に不思議な親しみと胸の高なる思いを上手に歌にされました。日常の中に、だれでもが作らない発見は、新鮮な感動を呼ぶものです。これからも心に感じる瞬間を切り取って良い歌を作して下さい。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 冬に咲くすいせんの花ゆれていて

僕も負けずにがんばろうかな

中央中学校1年 林 裕樹

(評)

寒い冬にも元気に美しい花を咲かせる水仙に心を引かれ、自分にも苦しいことがあっても頑張ろうと、決意を歌にされました。自然の営みにヒントを得て、自分に置きかえて歌にすることはとても良いことです。歌として上手にまとめられました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 原爆で多くの命が無くなった

この出来事は忘れてはならない

西中学校1年 中嶋 大智

(評)

災害により多くの尊い人命が失われることは本当に悲しいことです。それにも増して人間同士の争いで多くの命が失われたことは本当に許されないことです。原爆の投下は何十年たっても忘れられず、「二度と戦争はしてはならない」強い思いは、とても意義深いことです。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選 袋づめ恐いな恐いなお客さんの

強い視線を感じ心がウナギのダンス

稲枝中学校2年・川 颯

(評)

受業による職場体験のひとこまを切り取って歌にされました。良かったと思います。

下の句は、簡略にして「視線に心はうなぎのダンス」と、七・七にまとめるともっと良くなります。「ウナギのダンス」は他の人が考えない独自の表現が良かったと思います。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 受験生受験勉強がんばるぞ

陰で見守る家族のために

東中学校3年・田 龍斗

(評)

みんなが楽しむ正月を、ひとり受験勉強の年となったのを歌にされました。家族も色々気を使って応援してくれているのを解っているので、ここは辛抱して頑張ろうという。強い決意がよく現れていて立派です。

青春は二度とない。頑張ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)



佳作 秋が来たおいしいものを食べようか

読書をするかスポーツか

彦根中学校1年 杉山 拓哉

佳作 大なわでみんなでとんでるこの一瞬

あとで思えばすてきな一時

中央中学校1年 竹内 りこ

佳作 懸命に働いているありのよう

母のためにちよつと手つだい

中央中学校1年 北川 阿南

佳作 毎日のきつい練習やりぬいて

試合で決まった私のサーブ

中央中学校1年 横山 楓

佳作 食の秋いろんな食べ物食べてみて

今の季節を口で感じる

中央中学校1年 折戸 尚輝

佳作 ありがとう言われた人も言った人も

気持ちが変わる大事な言葉

中央中学校1年 今村 美優

佳作 中学校小学校より筆箱が

太りはじめたかばんが重い

中央中学校1年 中江 優希

佳作 負け試合流した涙次は勝つ

無駄な努力は絶対にならない

彦根中学校1年 宮本 流星

佳作 お姉ちゃん呼ばれ続けた五日間

充実しすぎてさみしいお別れ

稲枝中学校2年 小寺 華

佳作 松原で大きな鳥が飛んでいる

それは巨大な鳥人間だ

東中学校3年 山本 歩未

佳作 ひこにゃんの愛しき姿ひと見れば

みんなの心つかみはなさず

東中学校3年 桑野 聖陽

入選 クラス全員心を一つに合唱コン

気持ちは届く心に響く

中央中学校1年 木村 玲奈

入選 今この時生きてるだけですすごいこと

母への感謝心において

中央中学校1年 齊藤 杏乃

入選 ぼくの家いつもみかんが置いてある

家に帰るとすぐに皮むく

中央中学校1年 黒田 和巳

入選 下校中木枯しふいてさむいけど

帰宅し感じる家族の温もり

中央中学校1年 野村 武尊

入選 部活動毎日走って努力して

自己の記録を更新するぞ

中央中学校1年 古家 茉奈

入選 秋の夜虫の歌声流れてる

この音楽は秋だけのもの

中央中学校1年 櫻木 りさ

入選 十一時二分もくとうをして思うなり
みんなの宝命と心

西中学校 1 年 湯沢 零司

入選 甲子園誰もが夢見る夢舞台

夏の日ざしがまぶしくかがやく

彦根中学校 1 年 藤居 海斗

入選 夜の空星がきれいだ天の川

ハシゴがあれば届きそうだね

彦根中学校 1 年 馬場 圭吾

入選 バレー部はいつも元気で明るくて

やる時はやる良いチームだよ

彦根中学校 1 年 辻 朱音

入選 帰り道色づく雲見て秋感じ

家に帰ればさんまの塩焼き

稲枝中学校 2 年 寺田 由樹

入選 金色に光り輝く夜の月

うさぎがおどる心がおどる

稲枝中学校 2 年 川合 隼

入選 織田信成最近テレビにでているね

スケートやめて泣くのもやめた

稲枝中学校 2 年 増田 龍世

入選 保育園みんなの笑顔いやしです

楽しい思い出覚えていてね

稲枝中学校 2 年 寺嶋 千尋

入選 水でつぼう園児と打ち合い楽しくて

つい自分まで園児に戻る

稲枝中学校 2 年 須賀 つづり

入選 幼き日思い出させる多景の島

夏の琵琶湖の湖辺の香り

東中学校 2 年 宮川 虎太郎

入選 夜を染める空に咲いた花たちは

見ていたものの心も染めた

東中学校 3 年 村上 和希

入選 彦根城きれいに保とう日本の国宝

一緒に目指そう世界遺産登録を

東中学校 3 年 城野 壮汰

入 選 彦根市は自然ゆたかな城下町

ここぞ我らのふるさとだ

東 中 学 校 3 年 北 村 真 聡

入 選 くりひろい今年も秋が来たんだと

心の中が秋にそまるね

彦根中学校 1 年 北 川 久 遠



【総評】

小学校1・2年生、3・4年生とも楽しく選ができた。特選、準特選作品はいずれも、的確な具体的表現がされており、素直に作者の心情が読みとれた。佳作ながら、「秋晴れになかまとともにぐるぐると走り回ったぼくらタイフーン」は結句の「ぼくらタイフーン」がいかにも子供らしい発想で好ましかった。「天国のおじいちゃんにとどくかなきれいな光万とう流し」も心やさしいいい歌である。

5・6年生、中学生には失望した。百人一首や日常生活の中にあつた歌のある環境が失われているのが背景にあるのだろう。歌は五七五七七の散文ではない。情景が浮かび、発見があり、詩がなければならぬ。昨年も指摘したが、「楽しみは」に始まる歌が5・6年生で30%もあった。橘曙覧（たちばなのあけみ）という人の生き方があって「楽しみは」が生きていたのであって、安易に真似るべきでない。また、明らかな盗作があり、しかも二人が同一作品で応募していること、また、百人一首の蝉丸の歌をそっくり出している姿勢をどう考えたらよいのであろうか。

（彦根文芸協会 島野 達也）

詩

〈小学1年生・2年生〉

特選

ちかみちなんかしないよ

城東小学校1年

熊谷

政宗

ともだちのおうちにいき
おわたたらちかみちしよう
ちかみちしたら
はやくおうちにかえられるから
ちかみちしよう
でもぼくは
ちかみちなんかしないよ
だっておばけにであうかもしれないから
だからちかみちなんかしないよ

(評) ちかみちをしたいという気もちと、ちかみちはしないという気もちのゆれているようすが、よくあらわれていますね。すなおな気もちがよく書けていると思います。

(彦根文芸協会 西村 和野)

特選

さくら

若葉小学校2年

中道

結

さくらって
春のおわりでかれちやつて
つぎのなつにはもうさかない
はなびらものこらないけど
つぎの春にはまたあえる
そのときまではまつてよう

さくらとわたしが小さいころに
とったしやしんのことをおもいだして
入学しきでみたときの
さくらのことをかんがえて
またさくらがみられることをかんがえて
ずっとずっとあたまの中は
さくらといっしょ
いつまでもわすれられない
大すきなさくら



(評) 「さくら」と「わたし」が同じように共に生きていると考えられることがすばらしいですね。友だちとおはなししているようで、幸せな気持ちになれる詩です。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

こい

亀山小学校1年

田中

美結

きれいな水が
こいといっしょに
ながれてく
すいすいとおよいで
うれしそう
見ているわたしも
うれしいよ

(評) くらしの中でなにげなく見る池のこい。そのようすを「すこい」と発見したことはすばらしいかんさつだと思えます。こいの気もちになつて書かれているのがいいですね。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

なんて日だ

若葉小学校 1年

山本 健斗

一日中わらわれるなんて
きようはなんて日だ
一日中なんにもできないなんて
きようはなんて日だ
一日中おいかけられるなんて
きようはなんて日だ
一日中おとうさんとあそべるなんて
きようはなんて日だ

(評) 毎日のくらしのなかで、「なんて日だ」と思う
ことを詩にしてくれました。たいへんだった日
も、「なんて日だ」と力づよいことばで表わされ
ていますね。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

べんきようがんばんった

城西小学校 2年

瀧波 はるか

国語のべんきよう
がんばんった
字をかくのを
がんばんった
字が
きたない
きたない
言いながら
がんばんった
そしたらやつと
きれいにかけた
わたしが
その時
がんばんったと
じぶんでじぶんに
言った

(評) べんきようをがんばんっているようすが、よく
書かれていますね。詩もとてもよくがんばんって
書いてくれました。このちようしで、がんばんっ
てください。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

友だち

城西小学校 2年

花見 悠理

友だちできたらなにしよう
あつ
あの子
友だちになつてくれそう
あの子
ひとりぼっちだ
「いっしょにあそぼ」て
いってあげたら
友だちになつてくれるかな

(評) お友だちになつてくれるかな、という気もち
が、すなおに表わされて、ドキドキする気もち
が伝わってきます。

(彦根文芸協会 西村 和野)



準特選

さかなはすごい

城東小学校 2 年

東川 拓翔

コイは すごいね

からだがね

ダイヤのよう

コイ すごいね

いきがね

いつまでも

みずのなかにいるんだもん

「くるしくないのかな」

「くるしくないのかな」

コイはすごいんだ

かわいいな

(評)

こいが気もちよさそうで、この詩をよむと読む人まで心がきれいになるようです。水がきれいという発見が、すべてをきれいにしていきますね。すなおですがすがしい詩です。

(彦根文芸協会 西村 和野)

佳作

空とかぜとはなびら

城東小学校 1 年

藤田 こなつ

空は

ずっとずっとつづいてる

空のあおは

ずっとずっとつづいてる

どこまでもつづいてる

かぜもいつしよかな

かぜは

はるをはこんでくれる

かぜは見えないけれど

かぜと空はともだちだ

はなびらは かぜといつしよ

「はるよ こいこい」

と よんでいるかもね



佳作

でんわはすごい

城東小学校 1 年

大藏 茉里菜

でんわ でんわ なんでもできる

すごいな すごいな

プルプルプル

いい音ね

わたしもいつしよに ルルプルルプ

またまたいい音ね

いつもいつもいい音ね

森のどうぶつも

耳をすましてきいててね

プルプルプル ルルプルルプ

いい音ね

たのしい音がく かなしい音がく

きみと森のどうぶつは

どっちがすきかな

わたしは どっちも大好き

でんわでんわ

プルプルプル プルプルルプ

いい音ね

佳作

がつこう

城東小学校 1年

村川 萌々子

大きいな
大きいな
学校って大きいな
なんでそんなに大きいの
なんでだろう
おねえちゃんがおしえてくれた
みんながべんきようするからだよ

佳作

音がく会

城南小学校 2年

山口 桜都

今日はたのしい音がく会
がっきがみんなあつまつたよ
ピアノカ タイコ シンバル
てつきん もつきん タンブリン
いろいろあるね たのしいね
みんなの音色が
まぎって まぎって
すてきな音がく会

佳作

ランドセル

城東小学校 1年

杉本 源

おもたいな
おもたいな
ランドセル おもたいな
ランドセル おもたいな
なぜかってもうぼくは一ねんせいだから

佳作

わたしがじっちよりんだったら

高宮小学校 2年

小中 結来

わたしがじっちよりんだったら
かぞくとブドウの家をつくるよ
その家でみんなで
おいしいごはんをたべるよ
そしてみんなとあそぶ
はっぱのすべりだいをする
ゆれる花にのってブランコをする
じっちよりんは 小人
小さいから何でもできる

佳作

先生がかていほうもんに来た

城西小学校 2年

西川 奈穂

先生がかていほうもんに来た
先生がマンションの中へはいった
わたしたちのへやへはいった
リビングへはいった
リビングの戸びらを
おかあさんがしめながらこう言った
「自分のへやでべんきようしてなさい」
おわるまでべんきようをしようと思ったら
リビングから
わらい声がきこえてきた
はいってはいけないと言われたので
まっていた
十分ぐらいたったら
先生とおかあさんが
リビングから出てきた
やっぱりわらうぐらいの
話をしていんだと
わたしは思った

佳作

家ぞくのみんな

城西小学校2年

房野 ななみ

わたしの家ぞくは
四人家ぞくだ
おとうさんは
あまい
おかあさんは
からい
おとうと
けんかした
ほんきで
けんかした
かったのは
わたし



佳作

ほこりつけたのだれ

城東小学校1年

加藤 凜

ほこりをつけたのだれ
ぼくだよ
そうなの
なんでつけたの
なんでかって
おもしろいから
そういつて
ほこりはひらひらとんでった

佳作

どこんじよう

高宮小学校2年

丸山 勇氣

ぼくが
どこんじようのある人だったら
いろいろなことをたえたいな
さむさやあつさをたえたいな
パンチをくらつてもたえたいな
つよいどこんじようが
あったらいいな

入選

あきのあしあと

城東小学校1年

馬場 裕士

あきのあしあと
小学校がおわったら
おちばだらけになるのかな
あきのあしあと きれいだね
おちばだらけできれいだね
いろがある
おちばにはいろがある
あか き ちやいろ
いろんないろできれいだね
いっぱいあつてきれいだね

入選

せかいじゅう

若葉小学校1年

秋山 愛莉

せかいを たびしてみたいな
せかいには
どんなどうぶつがいるんだろう
たくさんのどうぶつと出あつて
なかよしになりたいな
ぞうのせなかに
のつてみたいな

入選

あめさんだ

城東小学校 1 年

林

向日葵

あめがふれ
あめがふれ
みずたまりであそびたいな
あめがふれ
あめがふれ
かえるさんとあそびたいな
おたまじやくしさんとあそびたいな
たのしそうだな
あめであそびたいな
あめやめ
あめやめ
あそぶのたのしみだな

入選

ブランコ

城東小学校 2 年

北川

那奈

風にのったら
高く高く
青空をとんでいるみたい
もう一回のったら
どこまでとぶの
つぎはつぎは
空のふもとまでとぶの
たのしいな
たのしいな
たのしいな

入選

どんぐり

若葉小学校 1 年

三澤

愛恋

どんぐりひろったよ
ころころしていてかわいいな
どんぐりでなにつくろう
ネットレスをつくろう
ひもをとおしてできあがり
かわいくできたよ

入選

はっぱ

城東小学校 1 年

田中

彩翔

みどりのはっぱ
きいろのはっぱ
赤のはっぱ
みどりときいろが
まざったはっぱ
赤ときいろが
まざったはっぱ
いろがまざったはっぱ
ぼくはどのはっぱもほしいな
どのいろもきれいだな
ぼくも
はっぱをあつめにいこうかな
いろがまざったはっぱもほしいな
ぜんぶほしいな
ぜったいぜんぶほしいな
もつともつとほしいな



入選

ランドセル

城東小学校 1 年

橋村

空

うれしいな
かったばかりのランドセル
おもたいけどうれしいな
きょうかしよもらって
ランドセルのなかにいれると
おもたいな
ふでばこかってもらった
いっしょにふでばこいれると
おもたいな
でもぼくは あしたから
一ねんせい



入選

わたしが花やさんだったら

高宮小学校 2 年

・村

和紗

わたしが
花やさんだったら
黄色とピンクの花ばかりを
お店にならべるかもしれない
黄色とピンクの色がすきだから
黄色は
たんぽぽ なのはな
ピンクは
コスモス モモの花
どれも大すきな花

入選

カマキリ

若葉小学校 1 年

有馬

太陽

かおがおもしろい
かまがかっこいい
くびがながい
しりが大きい
はねが大きい
足がながい

入選

ぼくが小人だったら

高宮小学校 2 年

筒井

翔太

ぼくが小人だったら
虫にのりたい
バツタにのったら
ジャンプできる
てんとう虫にのったら
外をとべる
ダンゴ虫だったら
石の下に入る
いろんなところをぼうけんする
ウキウキ たのしい

入選

ふとん

城東小学校 1 年

将亦

莉星

ふとんはきもちいね
ほしたらぽかぽか
おひさんありがとう
ぼくはふとんが
すきなんだ
みんなも
だいすき
ぽかぽかふとん

入選

貝がら

城東小学校2年

北村

ミミ

貝がらは
人魚がのこした
たからものかな
それとも
なみだがくれた
プレゼントかな
いろんな 貝が
あるけれど
海の貝が 一番だ

入選

やきゅうせんしゅ

高宮小学校2年

松田

湊

ぼくがやきゅうせんしゅだったなら
入るチームはタイガース
ポジションは ピッチャー
一しあいぜんぶなげきつて
かんぜんじあい
おにいちちゃんはべつのチームだ
おにいちちゃんとたたかって
三しんをとる
めざすはリーグゆうしょう

入選

たいよう

高宮小学校2年

江龍

なを

わたしが
たいようだったら
みんなを
よろこばせるように
光をてらしたい
さむがつている人は
光であたためたい
せんたくの多い人には
せんたくものを
かわかしてあげたい
やさしいように
なりたいたい



入選

おくりもの

高宮小学校2年

中田

優菜

なつがきたらあつくなる
ふゆがきたらさむくなる
あついのも
さむいのも
みんなだいじなおくりもの
春は花
夏はかきごおり
秋はまつり
ふゆはこたつ
きせつは
だいじなおくりもの
いのちも
空からのおくりもの
友だちやわたしのいのち
だいじにしたいな

〈小学3年生・4年生〉

特選

ビー玉

城南小学校3年

幸重

季空

とてもあつい日
ビー玉をグラスに入れると
キラキラかがやき
すずしい気がした

その中から一つだけ取り出して
かた目でビー玉をのぞいてみると
ビー玉の向こうは
いつものけしき

だけどいつものけしきが
いつもとちがう

ぼくは少しだけ

ビー玉のけしきですずしくなった

(評)

あつい夏の日、ビー玉に涼しさを見つけ、グラスの中に入れたり、片目で向こうをのぞくなど、自分のはたらきかけを通して、いつもとちがうけしき、ちがう自分まで見つけています。同時に応募された「月食」の詩も作者の感じ方が光る作品でした。

(彦根文芸協会

谷口 明美)

特選

塩にぎり

城東小学校4年

伊藤

慶勇

ある夜 おかまをのぞいた
むぼうびなじょうたいで
ごはんはぼくをさそってくる
ぼくに「食べて下さい」と
そしてぼくは手に
塩をぬった
ぼくは塩のついた手に
とびつきり多くご飯をのせた

その後

ぼくは調度いい具合ににぎった

最後に大きな声で

「いただきます」を言った後

大きな口で塩にぎりをほおばった

(評)

「ごはんはぼくをさそってくる」「食べてください」という感じとり方や表し方に、おなかをすかした作者が、ごはんをのぞくうれしそうな目の輝きまで見えてきます。「むぼうびなじょうたい」とは、大人のようなとらえ方ですね。

(彦根文芸協会

谷口 明美)



準特選

すばらしき沖縄

城東小学校4年

山田

楓勇紀

沖縄はすばらしい
海もホテルもきれいだな
旅行者もびつくりするほどきれいだな
エメラルドビーチは太陽あびて
きらきら宝石みたいな美しさ
パイナップルもおいしいな
シーサーは沖縄代表守り神

沖縄はすごいよね

日本軍敗北 大和ちゃんぼつ 特攻隊

悲しい島でもあるけれど

なぞだ よなぐに島海底いせき

いつか そのなぞといてやる

沖縄の名物サトウキビ パイナップル

昔の人も食べたかな

夜はレアな生き物 きれいな星

台風の通り道さ

旅行は一人じゃ

ぜったい楽しくない

みんなで来なくちゃ楽しくない

(評)

「すばらしい」「すごいよね」と深く感動しながら沖縄の美しい海や空、おいしい産物、さらには悲しい歴史やいせきにまで、広く目を輝かせ、沖縄が大好きになりながら、感じとり学んできた旅行のようすが生き生きと書かれていて、読者の心までさそいます。

(彦根文芸協会

谷口 明美)

準特選

パパと自てん車

平田小学校3年

出口 大和

パパが買ってくれた
新しい自てん車
パパがいっしょに
練習してくれた
がんばろうと思った

パパが

「手をはなすよ」

と いった

あつ ひとりでのれた

ゆめかなと

ほっぺをつねった

いたかった
ゆめじゃない

こわくてのれなかった

自てん車

パパ

「ありがとう」

(評)

「ゆめかなとほっぺをつねった」という表現から、夢中になって練習して、やっと自転車に乗れた作者の喜びが強く伝わってきます。また、パパの「手をはなすよ」という言葉からもお父さんのいっしょけんめいな気持ちまで見えてきます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

夏の空

城南小学校4年

岡田 みのり

すいこまれそうな青色を
だれがぬったんだろう
通りぬけていった風？
それとも雲？

ピッカピカな白色を

だれがせんたくしたんだろう

通りすぎていった雨？

それとも海？



(評)

青色や白色を「だれがぬったんだろう」「だれがせんたくしたんだろう」と、ふと立ち止まった作者の感じとり方、想像する力に目を見はらされました。読み手も、作者の問いかけに乘せられてしまいます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

お花のえ顔

金城小学校4年

宮川 あかり

お花がわらう
わたしには分かる

お花が

わらっているように見えると

わたしまで

なぜかわらってしまう

お花は

いつもわらっている気がする

わたしもお花のように

いつまでもわらっていたい

(評)

ただ「きれいだな」と見すごしてしまわずに「お花がわらう わたしには分かる」と、花に心を動かして深くやさしく語りかけるような作者の花へのかかわり方から、この詩は生まれています。花と作者の温かい会話が聞こえてくるようです。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

わかば

城東小学校 4 年

福原 恵実

木の根に
小さなわかばがはえる
深い緑のきれいな はっぱ
うすい緑の小さな はっぱ
雨のしずくが
キラリ と光る
わたしの中にもわかばがはえる
ふわふわふくらむ
やさしいわかば
ちくちくささる
いじわるわかば
わかばは小さな
私の 心
やさしい わかばも
いじわる わかばも
育てていくのは 自分だよ

(評) 木の根に生える小さなわかばから、「わたしの
中にもわかばがはえる」こと、そのわかばには
「ふわふわ」も「ちくちく」もあることを見つ
けています。最後の三行は、『ふわふわわかばの
わたし』がした『やさしい行い』で結べるとい
いですね。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

佳作

音楽会

城南小学校 3 年

勝木 藍

音楽会すぐきんちようした。
ステージに立ったら
お母さんが手をふっているのが見えた
もつときんちようした
ちよつとわらいそうになった
でも、それをがまんした
リコーダーが終わって歌にかわった
しきの先生がむねをトントんとたたいた
自しんをもつていこう
と、思った
歌いはじめるときんちようが
楽しい気持ちにかわった
大きな声で楽しく歌えた
終わったらすごくすつきりした
気持ちになった



佳作

マラソン

城西小学校 3 年

小川 朋子

ある秋の日 前から風がやってくる
ひつしに走ろうとがんばる私
でも足がなかなか前に進まない
困った 困った どうしよう
自分のタイムときそい合う
ライバルぬかして ああ いい気持ち
家族も応援してくれる
一生けんめい走るんだ
風に向かってつきすすむ
自分に がんばれとささやく私
息が切れて来て ライバルにぬかされる
悔しくて悔しくて 思いっきり走る
がんばれば できるんだ
本気を出そうと思ったとき
ころんでしまった私
でもすぐ立って
思いっきりライバルぬかし つつ走る
タイムと順位が気になるよ
家族も横で応援してるその時・・・
ゴール ゴールが できた うれしいな
結果は さいこうに よかったよ

佳作

どうして物はなくなるの

若葉小学校3年

福田 菜々子

どうして物はなくなるの
かあさんがすと見つかるのに
だれかがかくしているのかな
それとも物がにげてるのかな
考えてみるとすつごくふしぎ
つくえにおいたはずなのに
すぐになくなってしまうもの
えんぴつなくすと勉強できない
物をなくすと本当にこまるね



佳作

ころもがえ

平田小学校3年

外川 陽南乃

春 木にはきれいな花がさく
わたしの服も花がさく
夏 緑の服に ころもがえ
わたしの服は うす着になる
秋 赤 黄 茶色でカラフルに
わたしの服は 冬のじゅんぴ
冬 葉っぱもおちてこごえてる
わたしの服はモコモコポカポカあったかい
春 夏 秋 冬
木も
わたしも
ころもがえ

佳作

めざましどけい

城東小学校4年

山田 蒼葉

起きて 起きて
朝ですよー
いつもベルを鳴らすのに
だれも起きてはくれないの
どうしてかしら？
さあもう一度
起きて 起きて
朝ですよー
起きて 起きて
朝ですよー
今日もベルを鳴らしてる
おやおや今日は起きてきた
よかったわ
でもどうしてかしら
なんと今日は遊園地
楽しみだから起きたのね

佳作

家族の手

城東小学校 4 年

井入 聖奈

お父さんの手 冷たいな
お仕事がんばっていること
すぐ分かる ありがとう

お母さんの手 いいにおい
せんたくしていること
すぐ分かる やさしい手

お兄ちゃんの手 あったかい
困った時に助けてくれる強い心
すぐ分かる たのしい

弟の手 小さい手
守ってあげなきゃいけないこと
すぐ分かる かわいいな

わたしの手 大事な手
大切なゆめをつかみとる まほうの手



佳作

スイートポテト

城東小学校 4 年

安齋 来花

わたしの
大すきなおばあちゃんの
スイートポテト
ピカピカ ほかほか
みんな取り合い
わたしにも
作ることができない
お母さんにもね

わたしの
大すきなおばあちゃんの
スイートポテト
黄色い ふわふわ
みんな大すき
お姉ちゃんにも
作ることができない
お兄ちゃんにもね

きつと世界でこんなに
おいしいスイートポテトを作れるのは
おばあちゃんだけ
きつとね

佳作

家族

城東小学校 4 年

岡本 世翔

お姉ちゃんいてよかったなあ
遊んでくれるし
教えてくれる

そんなお姉ちゃんの妹でよかった
妹いてよかったなあ
妹といるとなんだか楽しいし
気もちがやさしくなる

そんな妹の姉でよかったなあ
お母さんいてよかったなあ
おいしいごはんを作ってくれるし
だめなことはだめと注意してくれる
そんなお母さんの子でよかったなあ
お父さんいてよかったなあ
遊びに連れてってくれるし
みんなのためにお仕事をがんばってくれる
そんなお父さんの子でよかったなあ
わたしこんな家族の子でよかったなあ

佳作

一日のはやさ

城西小学校3年

佐渡

俊介

ぼくは ある日こう思った
一日は速い日とおそい日があることを
とくに一日が速いなーと感じるのは
遊んでいるとき
一日がおそいなーと思ったときは
けんかしたとき
やっぱり一日の長さは
なぜか気分によつてちがうように思う

佳作

みつけたよ

城北小学校3年

花澤

凌空

大きいぞうあるいてて
大きいくもうかんでて
大きいカーテンしめていて
大きい木たっている

れいぞうこたっている
テレビついている
タンスあけていて
ドアがあいている

きょうは大きいものばかり
みつけた

入選

妹

城東小学校4年

中澤

歩南

妹っていうのは
遊ぶのはとても楽しい
ケンカしてもすぐ仲直り
妹っていうのは
なんてことないことを
聞いてくれる相談相手
私 命令してる？って
妹によく聞く
でも妹は決まったように
言ってくれる
「お姉ちゃん おこるとこわいけど
やさしいよ」と
そんな妹が大好き！
妹っていいな

入選

ピアノ

城東小学校4年

松井

美羽

ポロン ポロン
音がする
ピロン パロン
おもしろい音がする
音がするたび足が動く
タン タン タン
どんどんリズムにのっていく
この音を
ピアノはどう思っているのかな
きれいだな 楽しいな
と思っているのかな



入選

春夏秋冬

城東小学校 4年

辰野

真末

さくらの木の下
大人も子どももピンクにそまる
春の一日

青い空の下
海ではしゃぐ子どもたち
こんがりやけた夏休み

赤や黄色の葉の下は
ひよっこり顔だす松だけが
あちらこちらに見えている
秋のごちそう

こたつの中
冷たい手足がよろこんで
体ほかほかあったまり
つついねむるよ
冬の夜

入選

大きいもの・小さいもの

城西小学校 3年

藤川

尚暉

大きなものってなんだろう
ぼくたちの大きなものは
きみたちの近くにもある
でも 虫たちにとって大きなものは
ぼくたちにとっては小さいものかも
ぼくたちが大きいと思うものは
たてものにとつて小さいものかも
ものやいきものによって大きいものは
みんなちがうんだね

入選

秋の声

平田小学校 3年

山田

柑奈

そよそよと
すすきたちの 話声
ちろちろちろと
秋の声たちの
音楽会

入選

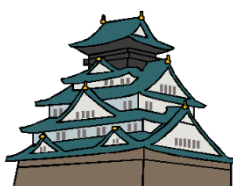
ぼくらと彦根城の一年

城東小学校 4年

大久保

翔馬

彦根城は
ぼくらといっしょに生きている
ぼくらと共に衣がえ
ぼくらと共に年めぐり
春は桜でピンク色
夏は葉っぱで一面緑
秋は紅葉真っ赤っ赤
冬は雪で真っ白だ
彦根城は
ぼくらと共に生きてきた
彦根城は
これからも僕らと共に生きていく



入選

一日の学校

若葉小学校3年

澤

咲愛

おはようの一言ではじまる一日
朝の会 お当ばんさんがすすめるんだ
そしてじゅぎょう
すきな教科はうれしいな
きらいな教科はしょんぼりだ
やっときた休み時間
友だちと楽しく遊ぶ
次は楽しみにしていた給食だ
今日のこんだてはおいしそうだなあ
そうじの時間気合いを入れて
ほうき ぞうさんがんぼるぞ
5時間目
6時間目が終わると
さようならで帰るあいさつ
一日って早いなあ

入選

飛ぶ

城東小学校4年

三須

麻友香

いつか飛びたい
空へと飛びたい
鳥のように
ちようのように
つばさがあれば飛べるのか
いつか飛びたい
海へと飛びたい
鳥のように
とびうおのように
なにかあれば飛べるのか



入選

あつたらいいな

城東小学校4年

高橋

聖奈也

あつたらいいな
字が上手に書けるえんぴつ
あつたらいいな
話すだけで記録するノート
あつたらいいな
おこずかいがふえるさいふ
あつたらいいな
空がとべる車
あつたらいいな
音の世界
あつたらいいな
動物としやべるちようしん器
あつたらいいな
お世話ロボット
あつたらいいな
願いをかなえてくれるコピー機
あつたらいいな
が止まらない

入選

音

城西小学校3年

前川 悠真

ドクン ドクン 心ぞうの音
ドクン ドクン たいこの音
ガッシャーン われた音
フー フー 息をする音
ピーピー ひよこの鳴き声
今日はいろいろな音を見つけたよ

入選

かめがすき

城南小学校3年

齋藤 亮太

かめはくさい
でもかわいい
かめはつめがするどい
でもあしはプニプニ
かめはいつものんびり
かめはいつもマイペース
ぼくはそこがすき

入選

わたしのすきな物

城西小学校3年

谷村 和奏

わたしのすきな物は
なっ豆
卓球
うさぎのぬいぐるみ
そして お気に入りの筆箱
これがあるだけで
わたしは幸せ
それと
大すきな家族がいてくれれば
それでいい

入選

秋の風

平田小学校3年

山口 利孝

秋風がそよそよふいている
ぼくらのそばを通っていく
ぼくらの前も通っていく
風が冬をはこんでくる
もう少しで
冬がやってくる



〈小学5年生・6年生〉

特選

空の向こうに

城東小学校5年

大森 菜々子

空の向こうに だれかいる
あれは 神様ではないのだろうか
キラキラ光ってとんでくる
空の向こうにだれかいる
あれは
亡くなったおばあちゃんではないのだろうか
とても やさしい顔してる
空の向こうにだれかいる
あれは 自分の友達ではないのだろうか
みんながえがおで 私を見る
空の向こうにいろんな人がいる
神様
亡くなったおばあちゃん 自分の友達

(評) 仰ぎ見ているのは、はるかな空の向こう、神様や亡くしたおばあちゃん、友達まで見つめてくれていると想像をふくらませ、とても心おだやかな作品となりました。若さあふれる作者に次はぜひ、自分の夢を詩にしていってほしいと思います。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

特選

教室

城東小学校6年

栗田 晴乃

教室って
うるさくてにぎやか
みんなの楽しい声が踊ってる
教室って
静かで真面目
みんなのえんぴつの音がスキップしてる
教室って
とっても落ち着く
教室って
楽しくて 明るい風が吹く

(評) 毎日通っている教室が、沢山の友達と楽しく明るく過ごせる場所であることを作者はリズムカルに表現できました。六行目はこの作品の中では特に弾んで伝わってきて、学ぶことの心地よさを上手に表わしています。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)



準特選

雲

城東小学校5年

内堀 瑤

雲が泳ぐ
空をかきわけ 風にのり
前へ前へと進んでく
それを見た 小鳥が
「私も!!」と
雲のあとを追いかけていく
雲が走る
空をかきわけ 風にのり
みんなそろって大移動
それを見た 木の葉が
「ぼくも!!」と
雲のあとを追いかけていく

雲が踊る
空をかきわけ 風にのり
空飛ぶものは ついていく
地上にいる 人間は
「飛びたい!!」と
うっとりしながら 手をのばす

(評) 雲を観察しながら詩的でスケールの大きな作品だと感じました。最終連の四行目「地上にいる人間」は、作者自身であってほしい。そのほうがより飛翔していく感じが伝わるのではないだろうか。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

ピアノの音色

城東小学校 5 年

辻 真央人

ピアノの音色がひびいてる
家のどこにいても
ぼくの耳に入ってくる
ぼくは この音色を
一人しずかにきくのが好きだ
ぼくはひけないけれど
きいているのは好きだ
この音色には
つくったしよくにんさんの
魂がこもっているのが
つたわってくる
ぼくはそんなピアノの音色が好きだ

(評) 作者が心をとぎすませて熱心に耳をかたむけている様子がよく伝わってくる作品です。七・八行目では、ピアノの音に対する思いが修飾したことばの描写がないぶん、よりストレートに美しく響いてきます。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

なみだのしずく

城南小学校 5 年

伊村 美玲

私は今 暗い気持ち
私のなみだ 雨のように 落ちていく
その時 雨が ふり出した
ポツポツポツ
ポツポツポツ
水しように玉のように 光りながら
親友が かさを かしてくれた
かさを開いた
そのとたん
悲しみが ふっ飛んだ
まるでかさをとじた時に
ふり落とされるしずくのように



(評) 綺麗な文字で綴られていて、しつとりとした読後感のもてる作品でした。悲しみがふっ飛んだ最終連では、なみだは悲しみのためだけでなく、親友が登場すること、作者の心の内が見えてきてホッとしました。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

コスモスの花

城東小学校 6 年

大久保 真紘

私が笑うと 弟も笑う
弟も笑うと おばあちゃんも笑う
おばあちゃんも笑うと
おじいちゃんも笑う
おじいちゃんも笑うと お父さんも笑う
お父さんも笑うと お母さんも笑う
こうやって 家族みんなの心の中に
コスモスの花が
「ぱっ」とさく

このたくさんのコスモスの花を
家族を失い 悲しんでいる人へ
つなみにあい 暮らしが大変な町へ
何かでなやんでいる 県・府へ
戦争で苦しんでいる国へ
いじめられている子へ
なみだを流している人へ
病氣と戦い負けそうになっている人へ
いろんな人へ届けよう
そして コスモスの花でいっぱい
平和な世界になりますように

(評) 「絆を正して」読ませる優しい気でいて迫力のある作品です。コスモスをただ見ているだけでなく、作者の想いがどんどん広がって、その広がりの中にコスモスは咲くのですね。季節毎に素敵な花をこれからも咲かせ続けてください。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

秋ってすてき

城東小学校 6 年
・ 田 紫月

ぼくが思っている秋
あつたかーい 栗ご飯
ぞくぞくする ハロウィン
葉っぱでする 落ち葉の山
どれもこれも
ぼくの大好きなこと

でもね
一番好きなのは
紅葉かな
だって きれいだから
一人で見ていると
紅葉をひとりじめできる

けどね
みんなで見ると
もつともつときれいに見えるんだ

ぼくは 思うんだ
秋ってすてき

(評)

秋へのあふれ出てくる思いが沢山書かれてい
ます。「栗ご飯」「ハロウィン」「落ち葉の山」「紅
葉」それらを「ひとりじめ」しないで、みんな
で見る事がすてきだという作者の、味深い深い
心の中が上手に表現された作品です。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

佳作

あじ

城陽小学校 6 年
近藤 真子

おかあさんの おにぎり
おばあちゃんの おにぎり
あじ いっしょ
なんで？
それは親子だからかな
わたしも同じあじになるのかな。

佳作

さきほこれ

城西小学校 5 年
尾関 悠加

はじめてなのに
ひかれる瞳
紺色の夜空に
黄色い月
チリン
心の鈴がなって
すんだ気持ち
が
ひびいてく
さきほこれわたしたち

佳作

けしゴム

城東小学校 5 年
中野 愛美

ぼくはどんどんへっていく
どんどん どんどん へっていく
それでも平気さ
だってそれがぼくの指命だから
つかってくれるとうれしいな
けしてくれるとうれしいな

ぼくはどんどんへっていく
どんどん どんどん へっていく
それでも平気さ
だってそれがぼくの指命だから
ふでばこにすんでいて
えんぴつという友達がいる
ぼくはどんどん小さくなって
どんどんどんまるくなる
それでも平気さ
それがぼく けしゴムだから



佳作

もみじ

城東小学校 5 年

廣瀬 翔大

帰り道
ぱつと目の前にひらひらと落ちてきた
ぼくの手と同じ形の赤いもの
風がふき そらにはいつしゅん絵が書かれた
そう それはもみじの絵
どのもみじも一つ二つちがう色
だけど それは
そのもみじにしかだせない色

木はさびしそうにもみじたちを見送る

その時 ぼくは風の音に乗せられて

「さようなら」

「ありがとう」

「また来年」

という声が聞こえたような気がした

木ももみじも笑っているような気がして
ぼくもなんだか笑えてきた



佳作

不安をやる気に

城東小学校 6 年

宮尾 香菜美

人は
どうしよう と思えば思うほど
どんどん不安になっていく
だれかが もう無理だと言え
みんなも
本当に無理だと思えてしまう

人は

がんばろう と思えば思うほど

どんどんやる気がわいてくる

だれかが一生けん命がんばれば

みんなも

自然に動きだす

自分だけでも始めれば

一人だけでも始めれば

みんなはきつとついてくる

不安はやる気に変えられる

佳作

秋の匂い

城東小学校 6 年

川村 穂乃佳

秋というのは とてもいい匂い
どんな匂いかというと
それは・・・

読書の匂い

どんぐりの匂い

おいしそうな果物の匂い

そして・・・

松たけなど きのこの匂い

私は松たけが大好き

そして秋も好き

早く秋が来ないかな？

佳作

蛍の色できれいな夜

城東小学校 6年

北川 敬子

どうして 今日の夜はすごくきれいなのか？
私は わかる
どうしてだと思ふ
私の大切な人となりで笑ってくれてる
私は とてもうれしい！
でもね
君は朝になると
どこかへ行く・・・
私は悲しい
そんな思いも
あるけど・・・
夜になったら会えると思えばうれしい！
蛍よ蛍！
だから 私は今日も一日がんばる

入選

紅葉のとき

城西小学校 5年

鈴木 仁之助

とうとう紅葉のときが来ました
早いなあ
もつといたいなあ
仲間とのお別れの時期
つらいなあ
いやだなあ
みんなともうちよつといたいし
先にお別れするのもいやだし
先にふり返ったら
春は ぽかぽか
ぼくたちが生まれたとき
夏は ギラギラ
下には カブトたちがミツをすいにきた
色々とあったなあ
葉っぱの卒業
次は何に生まれるのかな
ではさようなら

入選

優しさまほう

城西小学校 5年

西村 涼子

「優しさはだれがつくつたのだろう」
「優しさはだれのためにあるのだろう」
「優しさはなぜあるのだろう」
そう悩むより
「優しさはみんながつくつたもの」
「優しさはみんなのためにあるもの」
「優しさはこれからもっと
増やすためにあるもの」
そんなふうに考えたら
ほら
きみの未来は優しさでいっぱい
きみの心も優しさでいっぱい
優しさはみんな共同共有の
まほうだよ



入選

うまいごはん

平田小学校 6年

川上 さくら

母がつくるこの味
なんかおちつくこの味
なんでかな？と母に聞く
それはまほうよと返される
でもやっぱり好きだなこの味
てれくさいけどありがとう
うまいごはんありがとう

入選

心の天気

城東小学校 5年

國田 枝梨子

今日はあったかいといっていたのに…
なんでブルブル寒むいんだろう
たぶん心がくもってるからだ
土日はかぜでねこんでいたからだ
気持ちが必要なスキツとしない
気持ちちはやっぱりスキツとさせたい
やっぱり心が晴れないと
ブルブル寒く思うんだ

入選

努力

城東小学校 5年

井入 宗大

ぼくは「努力すればむくわれる」
という言葉が大好きだ
今遊んでいる人よりも
絶対最後は今苦しんでいる人が勝つと思う
つまり
一言で表すと
「楽あれば苦あり 苦あれば楽あり」だろう
あともう一つ
「けいぞくは力なり」という
にている言葉もある
人間途中でさぼったり
あきらめたりしたら終わりだから
最後までやりきった人間だけが
夢にたどりつくことができると思う
だからぼくも
絶対に最後まであきらめない

入選

もつとちようだい たまごやき

城東小学校 5年

池上 琉加

お母さんのたまごやき
平日の朝に目がスッキリ
お母さんのはあまいんだ
毎日形がちがうけど
大きいときがうれしいんだ
お父さんのたまごやき
土日の朝のお楽しみ
たまねぎシャキシャキ
チーズトローン
ボリュームたっぷり
元気はつらつ
お母さんはふわふわで
お父さんは具たくさん
家族そろって ごちそうさまー！

入選

四つの季節

城東小学校 6 年

宮元

思緒

春：

桜がランドセルの上に
ひらひらひら
動物もみんないつせいに起きる
小さな白色や黄色の花が
パツと笑う

夏：

あせたつぷりになって
がんばる毎日
ぷかぷか浮かぶ浮輪にのって小麦色
夢中になって
すいかがシャキシャキ

秋：

空から降ってきた
赤と黄色の葉っぱ
小さなリスが小さなどんぐりをパクッ
半そでから長そでに衣替え

冬：

初雪がヒラヒラ フワフワ
熱々おでんをフーフー
こたつに入ったら
いつの間にかスヤスヤ

入選

空きびん

城東小学校 6 年

永松

陸征

本棚に空きびんがある

空きびんには

クツキーのかけら

砂

インクなど

たくさん物がある

それは空きびんの思い出なのです

昔の事を教えてくれる

楽しませてくれる空きびん

これからも空きびん

何かを守ったり

大切な役目を果たしてくれる

入選

秋の空

城東小学校 6 年

立澤

茉弥

秋の空

美しく赤く染まっていく

みんなで見えていた

そのときわたしは

もっと近くに行きたいなと思った

入選

「生きる」って何だろう

城東小学校 6 年

・田

音羽

「生きる」って何だろう？

体を動かす事？

息をする事？

頭を働かせる事？

「痛み」を感じられる事？

どんな「痛み」にもたえぬく事？

どんなに苦しい時にも

仲間がいると思える事？

仲間を愛し

自分も愛する事？

「生きる」ってどういう意味が

分かった時

人生はよりいっそう楽しくなる

《中学生》

特選

僕とボクの世界

ワールド

中央中学校2年

林

稜也

僕はまだ壊せていない
ベルリンにあったような
僕の心の中の壁を

僕はまだ壊せていない
僕はまだ壊したくない
壊れた壁のむこうに
僕の世界を探せない気がして

僕の「心」の中の歴史
それは僕を物語る
一本のペンで紙に刻んだ

“言いたい事を言えない
いつも出してるのはウソのボク”

僕の「心」の中の歴史
消せなくて 変えられなくて
でも歴史はカコ的事

「ミライ」を刻むのは今だから

(評)

「壊せていない」と「壊したくない」の壁の間を行ったり来たりしながら、自分の心に問いかけ続ける。心が成長していくための迷いやゆれ動きが内側に向かうだけでなく、広い世界を視野に入れながら巧みに書かれています。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

準特選

明日に向かって一歩ずつ

彦根東中学校2年

田島

美帆

明日のために
あなたのタスキ
つなげよう

明日はきっと
希望に満ちている

明日に向かって一歩ずつ

明日があるから
生きる力を

持ちつづけよう
明日はきっと

生きる道がある
前を向いて

明日に向かって一歩ずつ

(評)

希望、明日、未来、みんなと一緒に進んでいこうとする応援歌としての姿勢がうまく書けていますが、作者だけに響いてくる感性がどこかに表現されていると、いつそう輝く詩になるでしょう。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

佳作

宇宙人

彦根西中学校1年

下村

陸斗

宇宙人は空を飛ぶ円ばんにのって現れる
宇宙人は人などをつかまえ調べている
そして安全かどうか確認し
安全なら友好関係を築き
危険なら戦争をおこしてほろぼす

と 友達が言っていたが
本当に宇宙人なんているんだろうかと
考える火星人だった



入選

いいさん

彦根西中学校1年

湯沢

零司

こいさん
こいさん
おはよう
おはよう
きもちいいみずでおよげて
いいな
こいたちよ
およぎたいな
およぎたいな
こいみたいだね



【総評】

小学生の部では、学年が進むに従い応募者数
がかなり減っています。学校での学習内容も増
え、塾やおけいこ事に余暇をとられ、時間や心
の余裕がないのかも知れませんが、だからこそ、
時々に見つける目・感じとる心を鋭くし、言葉
にしてめんどうがらずに書きとめていつてくだ
さい。

中学生は勉強や部活動、スマホなどで忙しく、
ゆったりとした読書や想像の翼を広げている時
間など無いのが現実なのでしょう。応募作品が
少なかったのは残念ですが、そんな中で参加し
てくれた人たちには、短い作品の中にもきらり
と光る言葉や感性がたくさん見られました。一
生の糧になる素晴らしい詩や文豪といわれる人
の小説をたくさん読んでほしいと思います！

(彦根文芸協会 谷口 明美)
(彦根文芸協会 尾崎 与里子)



審査いただいた皆様

(敬称略・順不同)

彦根文芸協会

俳句

北川 栄子
野瀬 章子
藤田 治夫
寺村 滋

短歌

島野 達也
長谷川 紀子
河分 武士

川柳

須田 さゆり
加藤 佑子
重森 恒雄
今井 和子
知野見 松子

詩

谷口 明美
やまかみ まさよ
尾崎 与里子
西村 和野

彦根市教育委員会事務局
教育部 文化振興室

〒522-0055 滋賀県彦根市野瀬町 187-4
ひこね市文化プラザ・メッセホール棟 1 階
TEL 0749-23-7810 FAX 0749-21-3080
<http://www.city.hikone.shiga.jp/edu/>